

III 学校評価自己評価

京丹後市立幼稚園・学校評価自己評価報告一覧

学校名	学校・園教育目標
1 峰山幼稚園	<p>“笑顔でつなごう。みんなの てとて!!” ーはなそう・つたえよう・みんなのおもいー</p> <p>(1) 生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 (2) 主題的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。 (3) 身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。</p>
2 大宮幼稚園	<p>“笑顔と元気でつながる仲間!!” ～かんじて かんがえ ぐんぐんのばそう 心の根～</p> <p>(1) 生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育む。 (2) 身近な生活に主題的に関わり、言葉によるコミュニケーションを育む。</p>
3 網野幼稚園	<p>(1) 幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 (2) 自分の思いや考えを表現し、行動できる力を養う。 (3) 幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的な生活習慣や態度を育てる。 (4) 常に園内外の安全指導、安全対策に留意する。 (5) 地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。</p>
4 丹後幼稚園	<p>一人一人が生き生きと活動し、「楽しんで広がれ！つながれ！みんなえがお！」をテーマに、人とのかかわりや様々な体験を通して心豊かでたくましく、やさしさがあふれ、「生きる力」をもつ幼児を育成する。</p>
5 弥栄幼稚園	<p>「自然に親しみ 丈夫な体と 豊かな心を持った 明るい子どもの育成」</p> <p>○健康で生き生きと活動する子どもの育成 ○友達と関わり合って遊びを創り出す子どもの育成 ○人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えが言える子どもの育成 ○素直で思いやりのある子どもの育成</p>
6 かぶと山幼稚園	<p>幼稚園教育目標「元気な体と豊かな心、生きる力を持ったたくましい子ども」 ≪元気 勇気 笑顔 つながれ仲間≫へ友達とともに夢中になって遊び込む子どもをめざして～</p> <p>1 幼児自らが興味関心をもって環境にかかわり、心豊かでたくましく、生きる力を育てる。 2 人とのかかわりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てる。 3 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現できる力を育てる。</p>
7 峰山小学校	<p>1 就学前から中学校卒業までの10年間を見通した一貫性のある教育を推進する。 2 授業力の向上に全力を尽くす。 3 子どもたちが笑顔で楽しい学校生活が過ごせるよう全力を尽くす。 4 地域に貢献し地域とともにある学校づくりに全力を尽くす。</p>
8 いさなご小学校	<p>峰山学園の教育目標である「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」を目指して教育活動を展開する。</p> <p>峰山学園小中一貫教育により本校の教育活動を充実させ、京都府小学校教育研究会研究協力校として、算数科の研究を進めていく。</p>
9 新山小学校	<p>1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】</p>
10 丹波小学校	<p>1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】</p>
11 長岡小学校	<p>「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に努める。</p> <p>(目指す子ども像) ・意欲を持って自ら学ぶ子ども ・思いやりのある子ども ・進んで心と体を鍛える子ども</p>
12 大宮第一小学校	<p>1 意欲的に学び、チャレンジする子どもの育成 2 自他を大切にし、思いやりのある子どもの育成 3 心身を鍛え、活動的な子どもの育成 4 組織的・効率的・機能的な学校経営による信頼される学校づくりの推進 5 大宮学園経営計画に基づく小中一貫教育の充実</p>
13 大宮南小学校	<p>大宮学園 教育目標 「自他を尊重し、自ら学ぶ子どもの育成」</p>
14 網野北小学校	<p>1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。</p>
15 網野南小学校	<p>網野学園小中一貫教育の目標から 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成」</p> <p>目指す子ども像 ・あかるく元気に進んで学ぶ子 ・みんななかよく支え合う子 ・のびのび生き生きやりぬく子</p>
16 島津小学校	<p>1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。</p>
17 橘小学校	<p>【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」</p> <p>【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子 【知】意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子 【徳】規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きやりぬく子 【体】粘り強く心身を鍛え、やり抜く子ども 「毎日元気に登校したくなる学校」を目指す。</p>

学校名	学校・園教育目標
18 豊栄小学校	丹後学園教育目標「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて生きる子どもの育成」を目指し、目標達成のための具体的な取組を通して（具現化を目指し）学校づくりを進める。 ・「学ぶ意欲があふれる学校」「笑顔いっぱい豊栄っ子」をテーマに、学習の楽しさを実感させ確かな学力を定着させる。その学びを活かし、考え方や見方を広げるとともに、豊かな社会性を身に付けていく教育を行う。
19 間人小学校	教育目標（丹後学園共通） 「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 <目指す学校像> 1 よく考え学ぶ学校 2 友だちと仲良くする学校 3 最後まで粘り強く努力する学校 4 家庭・地域のつながりを生かした学校
20 宇川小学校	夢と希望と創造性あふれる豊かな心をもち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成
21 吉野小学校	小中一貫教育モデルカリキュラムを活用し、地域の特色を生かした教育課程の編成を行う。日常の教育活動を充実させながら、生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を行い、児童が主体的・対話的な学びを通して、学力が向上する学校づくりを推進する。保護者・地域・関係機関との連携を深め、保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。
22 弥栄小学校	かしこく やさしく たくましく ~自主・自立~ (1) 言語活動の充実 (2) 自己肯定感の醸成
23 久美浜小学校	学校教育目標の達成に向け、校訓「一生懸命」を取り入れた教育活動を推進する。 1 質の高い学力をつけるための学習指導及び学習環境整備を進める。 2 質の高い学力を培う基盤として、児童同士の好ましい友人関係の構築を一層進めるとともに、社会的なマナーの確立や規範意識の醸成を図る。 3 上記1・2を進めるために、中学校卒業時の生徒像を常に意識し、学園教職員として互いに理解し合い、学園経営と学校経営の連携を図りながら進める。
24 高龍小学校	「意欲的な活動を通して自分たちの考えを生かす」 1 学校課題の把握、組織的対応での解決 2 教育相談の充実と寄り添う指導の実践 3 地域連携による学習・生活力の向上
25 かぶと山小学校	久美浜学園教育目標 ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成 目指す児童像 (知) 意欲的に、質の高い学力を身につけようとする子 (徳) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子 (体) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子
26 峰山中学校	【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成 【めざす学校像】 ・生徒にとって魅力ある学校 ・家庭、地域社会にとって開かれた学校 【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒 【重点課題】 ・確かな学力の充実・向上 ・豊かな人間性の育成 ・信頼を高める学校づくり
27 大宮中学校	1 夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成学習意欲を高める授業づくりの充実と家庭学習の定着 2 学習意欲を高める授業の充実と家庭学習の定着 3 健康な体と豊かな心の教育の充実 4 信頼される学校づくり 5 教職員の資質能力の向上
28 網野中学校	将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進 1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
29 丹後中学校	開校4年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。 生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性に果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。
30 弥栄中学校	学力の定着と豊かな心の育成をめざし、生徒が元気に登校できるように学校生活を安定させる指導を展開し、希望の進路を実現する。
31 久美浜中学校	○規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことが当たり前にできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にする学校を目指す。 ○久美浜学園小中一貫教育の利点を最大限に活かし、教職員間の共通理解を丁寧に図りながら系統的に実践を積み上げる。 1 生徒の自尊感情を高め、望ましい人間関係を構築する。 2 基礎基本の定着を中心に据えた総合的な学力向上策を共通し、職員みんなで取り組む。 △授業規律の確立 △小中共通の授業構造による授業改善と言語活動の充実 3 「久美浜学園学校地域連携推進協議会」や「地域学校協働本部」等、新たな仕組みを機能化させ、久美中教育全体を充実させる。

平成29年度学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名 [京丹後市立峰山幼稚園]

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
<p>“笑顔でつなごう。みんなの てとて!!”</p> <p>一はなそう・つたえよう・みんなのおももいー</p> <p>(1)生活に必要な習慣・態度を身に付け、健全な心と体で生きる力を育てる。</p> <p>(2)主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。</p> <p>(3)身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。</p>		<p>○幼児が主体的に遊ぶことができるよう登園後、すぐに活動ができるよう環境を整えることができた。</p> <p>○一人一人が安心安定した生活ができるよう保護者の連携を持ち、関係機関との連携も行い、話し合いや研修を重ねることができた。</p> <p>○保幼かららの小中一貫教育を進める中で話し合いを通して連携を持つことができた。</p> <p>△保護者・地域に開かれた園として信頼関係に努める。</p> <p>△職員間の報告・連絡・相談の徹底と研修を深める。</p>	<p>(1)幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。</p> <p>(2)自らの健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。</p> <p>(3)幼児の実態や発達に合わせ支援し、共に育ち合う集団をつくる。</p> <p>(4)保護者の子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるよう支援する。</p> <p>(5)峰山学園(保幼から小中一貫教育)の連携を進める。</p>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
小中一貫教育の推進 (保幼小接続)	<p>○『峰山学園』の連携</p> <p>(1)意欲を持つて自ら学ぶ子ども(知)</p> <p>(2)友だちとかかわりながら遊びや生活を発展する。</p> <p>(3)思いやりのある子ども(徳)</p> <p>(4)保育所との連携</p> <p>(5)進んで心と体を鍛える子ども(体)</p> <p>・保育者や友だちと一緒に運動遊びに挑戦する。</p>	<p>(1)峰山学園経営会議を通して子ども達の実態から課題点を見つけ、共通の目標を持つ。(ことば力・聞く力・話す力からのコミュニケーション能力を育てる)</p> <p>(2)中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉体験での交流・参観交流 <p>(3)小学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会(生活・音楽)鑑賞・連絡会・運動会見学 ・散歩・体験入学・保育参観と研修会 ・小1スタークリキュラムの考察検討 <p>(4)保育所との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育交流・5歳児交流会・担任会・保護者会交流 <p>(5)高校生との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花の種植えと交流 	<p>○峰山学園の共通の目標である『ことばの力』『コミュニケーション能力』などの育成について、園内の縦横のつながりの中で、それぞれの支援の方法や個々に合わせた対応ができた。</p> <p>○異校種交流や散歩などで学校に行く機会を増やし、学校の先生や生徒との自然なかかわりができたことは憧れや学びへの興味や関心につながった。</p> <p>○青山教授を迎え、日常の保育の進め方や指導方法など参観や研修会を行い、良い学びの場であり良い方向の中で保育が進んでいると確認ができた。</p> <p>△5歳児中心の接続であるが再度、乳児期からの保育の大切さを確認しながら学び合う。</p>
教育課程	○幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。	<p>(1)園内外の自然の中で発見や感動を持つ。</p> <p>(園内)・砂・泥遊び・プール遊び・道具であそぶ</p> <p>(園外)・散歩・遠足・お花見・農道を歩く</p> <p>・よもぎ摘み・公園で遊ぶ・小動物捕り</p> <p>・混んこあそび・田植え・稻刈りなど</p>	<p>○園周辺が田園で、四季に合わせていろいろな風景が見られ、感動をことばにしたり表現活動を通して様々な変化を楽しんだり五感を通して経験したりすることで豊かな感性を養うことができた。</p> <p>○『朝の第一歩は挨拶から』を子ども達・保護者に伝えることで生活習慣やことばを意識することができるようになってきた。</p>

		<p>挨拶のトーンから感じられる個々の状況を受け止めることで丁寧な対応を行うことができた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的生活習慣や態度を育てる。 ○自分の思いや考えを表現したり行動できる力を養う。 	<p>(2) あいさつ運動:元気に挨拶を交わし一日を始める。 (3) 登園時間や子ども達の実態を把握し、個々に合った助言や指導を行う。 (4) 活動に合わせ、話し合いの時間や場を持つ。 •自分を知り、友だちの良さに気づける生活や遊びを進める。 •朝の会や終わりの会などで思いや考え方を伝える。 (5) 散歩や集団登降園などで交通ルール・集団でのルールと共に考え方を学ぶ。また、保護者会で交通安全・危機管理について学び合う。</p>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭での子育ての不安に寄り添い安心して子育てができるように支援する。 	<p>(1) 子育て相談(随時) (4)預かり保育 (2) 園庭開放(毎週金曜日) (5)支援センターの利用 (3) 園開放(月2回) (6)一時預かり制度の利用</p>
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの健康や生活に关心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる ○人とのかかわりの中でことばの使い方・必要性や大切さに気づき楽しむ。 	<p>(1) 登園時間を9時までとし、集団生活や活動の楽しさを知らせる。 (2) 園での様子をたよりなどで発信し、保護者や地域の方と共に教育保育を進めていく。 (3) 保護者・地域・社会人講師を迎えて様々な体験をする。 •絵本の読み聞かせ・野菜の苗植と定植・畠作り •琴の演奏に合わせての読み聞かせ・運動あそび •防災訓練・交通教室・ALTとの交流</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら進んで挨拶ができるようになる。 ○思いや考えを年齢なりのことばで伝える。 ○人の話を聞く態度を身につける。 	<p>○個々の発達を把握し、それぞれに合った保護者対応を進める。 ○0～5歳児までの発達や教育保育の捉え方を研修する。 ○職員間の報告・連絡・相談の徹底</p>

平成29年度学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔京丹後市立大宮幼稚園〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
“笑顔と元気でつながる仲間!!” ～かんじて かんがえ ぐんぐんのばそう 心の根～		<ul style="list-style-type: none"> ○自分の言葉で思いや考え方を表現し、人の話を聞く態度が身についている。 ○身近な物(教材・廃材)で工夫したり発想するなど自ら考え、主体的に遊べるようになつた。 ○異年齢での活動により関わりも増え、優しさや思いやりの気持ちが育ってきた。 △園での様子や活動内容を保護者に知らせる工夫、話をする時間の確保が必要である。 △職員間の報告・連絡・相談の徹底と子どもとの発達と教育・保育の研修を重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 体験的な活動の場を取り入れ、主体的で協同的な活動を引き出す環境構成に努める。また、遊びの体験を通して豊かな感性を養う。 (2) 自らの健康や生活に関心を持ち、生活習慣の基礎を培う。 (3) 家庭との連携や保護者同士のつながりを深め、安心して子育てができるように支援する。 (4) 大宮学園(小中一貫教育)の連携を図り、円滑な接続ができるよう交流や研修を進める。
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
小中一貫教育の推進(保幼小接続)	○大宮学園 経営計画に基づき取り組みを進める。 ○保幼・小学校との連携を密にし、円滑な接続を図る。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 経営会議を通して子ども達の実態を把握し、共通の目標をもつ。(ことばの力・思いやる心・つながる力の育成) (2) 小学校との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・体験入学や運動会、マラソン大会見学、生活発表会の鑑賞やアプローチプログラム、小1スタートカリキュラムの検討を行い、小1プログラムの解消を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○経営会議で共通の目的を持ち、『ことばの力』を中心には環境を整え、教育保育を進めていくことで、年齢に合った発達を促すことができるよう努力した。 ○25日『にこにこの日』をふれあい給食の日として同じ気持ちで取り組むことができた。また異年齢の交流も深まるきっかけとなつた。 ○異校種交流を行う中で、園児が生活や学びの見通しを持つたり、憧れの気持ちが育つたりするなど、心を豊かにすることができた。 ○スタートカリキュラムの検討など、担任会に参加し交流することで同じ目標を共有し、スムーズな接続に繋がるよう努力した。 <p>△公開授業や公開保育を利用して、職員の研修や交流を通して学び、連携を深め円滑な接続に努める。</p>

教育課程	<p>○幼児自らが環境に觸り、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。</p> <p>○自分の思いや考えを表現したり行動したりする力を養う。</p> <p>○幼児を取り巻く生活環境や健康新しい実態を把握し、基本的生活習慣や態度を育てる。</p> <p>○園内外の安全指導・安全対策に留意する。</p>	<p>(1) 園内外の自然の中で発見や感動を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> (園内) ・砂、泥遊び・水、プール遊び ・園内の草木・野菜作り・グッキング活動 ・虫捕り・小動物の飼育 ・遠足：天の橋立・地域の神社 ・散歩：花畠・神社・農道を歩く・蓬摘み ・田植え、稻刈り、泥遊び <p>(2) 挨拶運動：玄関で元気に挨拶を交わし、一日を始める。</p> <p>(3) 登園時間など子どもたちの実態を把握し、個々に合った助言、指導を行う。</p> <p>(4) 活動にあわせ、話し合いの場を持つ。</p> <p>(5) 散歩や集団活動などで交通ルール・集団でのルールを考え知らせる。</p> <p>(6) 異年齢での交流を深める。</p> <p>(7) 地域の高齢者との交流や高校生との交流(花の苗植え)を通して親しみの気持ちをもつ。</p>	<p>○園外保育を通して自然にかかわり、発見や感動体験をし、豊かな心、感性の育成につながった。</p> <p>○田植えや稻刈り・グッキング活動等を通して、食への関心や感謝の気持ちを育むことができた。</p> <p>○△保育者や子ども達が玄関で登園を迎える、挨拶を交わすことで挨拶の習慣慣は身についているが、今後は自分から進んで挨拶できるよう取り組んでいきたい。</p> <p>○△交通安全指導や防火訓練により自分の命を守ることや規範意識へとつなげことができたが、引き続き園児・保護者にルールや決まりを守ることの大切さを繰り返し指導していく。</p> <p>○豊かな人間関係を築けるように、異年齢活動や小中学校・福祉施設等の交流を進めていく中で、優しい言葉使いや思いやりの心を育むことができた。</p> <p>△園生活の中での様々な経験を通して、言葉を介したコミュニケーション能力を育む。</p>
		<p>○家庭での子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるよう支援を充実させる。</p> <p>○家庭と連携し、教育力の向上を図る。</p>	<p>・子育て支援センターや一時預かり制度の利用</p> <p>・子育て相談の充実や園開放・園庭開放により、保護者同士の交流を深める。</p> <p>・園便りやクラス便り、懇談会、生活点検表の実施を通して、子どもの様子を発信する。</p> <p>・保護者会活動を通して互いに学びあう。</p>
子育て支援	<p>○家庭での子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるよう支援を充実させる。</p> <p>○家庭と連携し、教育力の向上を図る。</p>	<p>・年間研修計画に基づいて、指導力の向上を目指した研修や事例研究に取り組む。</p> <p>・特別支援教育について研修を深め、職員間で共通理解をする。</p> <p>・初任者研修を通して、職員が一緒に学ぶ機会を持ち、資質の向上を図る。</p>	<p>○短い時間でも話し合いの場をもち、日々の教育保育について意見交換ができた。</p> <p>○外部研修後の復命を行うことにより、学びを深めたり意識向上につなげたりすることができた。</p> <p>△更に外部研修への参加や園内研修の実施に努め、児童解や職員の資質向上に努める。</p>
研修 (職員の資質向上)	<p>○園内研修の充実</p> <p>○職員の資質向上</p>	<p>・P D C Aサイクルを活用する。</p>	<p>○大宮学園の目指す子ども像の育成に努め、保小中と連携し、教育保育の質の向上を図る。</p> <p>○日常における園での活動や様子を家庭や地域に情報発信する。</p> <p>○認定子ども園教育・保育要領を熟知し、0歳～5歳児までの発達を捉え、一人一人の育ちに合わせた援助や環境構成に努める。</p> <p>○特別支援教育について、個々の実態を的確に把握し、保護者や関係機関との連携を図り、支援の充実に努める。</p> <p>○報告・連絡・相談を徹底し、職員間の連携を深め、また園内研修等の実施に努め、職員の資質向上を図る。</p>

平成29年度学校評価自評報告(幼稚園)

幼稚園名〔京丹後市立網野幼稚園〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
(1) 幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 (2) 自分の思いや考えを表現し、行動できる力を養う。		<ul style="list-style-type: none"> ・小規模園のよさを生かし、“全児に全職員でかかわっていく”という観点から、でかけるだけ児に寄り添い内面理解に努めることができた。 ・年齢なりの発達過程を基盤とし、協同性や社会性の育みを大切に保育をしてきたことで、友達との喜びや頑張りを認めたり、一緒に活動するとの喜びにつなげたりすることができた。 ・『網野学園』のアプローチプログラムと本園の教育計画の整合性を再確認し、実践につなげていくことが大切である。 ・要支援児の対応について、関係機関との連携を強化し、よりよい支援策を見出していくことが必要である。 	『どきどき わくわく きらつ！』 ~友達とともに夢中になつて 遊び込む子どもをめざして～
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
小中一貫教育の推進(保幼小接続)	・「網野学園」のめざす子ども像をもとに、学園の基本方針を理解しながら取組を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットを活用したり、小中一貫教育に関する会議や研修などに積極的に参加したりして、全職員で共通理解する。 ・運動会やマラソン大会、学習発表会などの学校行事を見学させてもらったり、園行事にも参加したりして、交流が深まるよう依頼をしたりする。 ・幼児と児童の交流の機会や、教師同士の研修の場を重視し、相互理解を深める。 ・学園のアプローチプログラムに園の独自性を加え、就学前に育ませたい力を明確化し、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○△『小中一貫教育』の研修には必ず参加し、児童生徒の現状や課題などを把握しながら、幼児期に大切にすべきことを園にもち帰り、全職員で考える機会にすることができる。しかし、公開授業については園行事等と重なり、参加しにくかった。 ○ 幼稚園の運動会に小学生が参加したり、マラソン大会を見学させてもらったりするなど、行事に係る交流ができた。中でも学習発表会については、それ以降にもつながる互恵性ある交流になつた。 ○△新幼稚園教育要領については、少しずつ共通理解する場をもつているが、次年度へ向けてのマネジメントは今後の課題である。

教育課程	<p>『どきどき わくわく きらつ！』～友達とともに夢中になつて遊び込む子どもをめざして～楽しい幼稚園生活が過ごせるようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の幼児と心をつなぎ、個々が安定できる幼稚園生活を創造する。 ・自らが健康や生活に関心をもち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 ・集団でなければできないこと、大勢ですると楽しいことに気付かせ、他人に関心をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のよさや頑張りなどを認めることで、担任だけではなくどの職員からも『包み込まれているという感覚』になるよう努めた。 ・登園の様子を見守ったり挨拶を交わしたりすることで幼児にとって「楽しい幼稚園」につなげることができた。 ・△運動会をはじめ、幼児の主体性を重視した様々な活動を通して「友達と一緒にすることが楽しい。」という気持ちが深まつたが、要支援児の中には、友達と繋ぐことが課題になる幼児もいる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・園開放により、就園前の親子の保育参加を行い、子育ての安定を図る。 ・園だより、クラスだより、懇談会等で保護者に幼児の様子を知らせ、家庭と連携し、『共育で』をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児一人一人のよさや頑張りなどを認めることで、担任だけではなくどの職員からも『包み込まれているという感覚』になるよう努めた。 ○ 登園の様子を見守ったり挨拶を交わしたりすることで幼児にとって「友達と一緒にすることが楽しい幼稚園」につなげることができた。 ○ △運動会をはじめ、幼児の主体性を重視した様々な活動を通して「友達と一緒にすることが楽しい。」という気持ちが深まつたが、要支援児の中には、友達と繋ぐことが課題になる幼児もいる。 	
子育て支援						
研修（職員の資質向上）						
次年度に向けた改善の方向性						

平成29年度学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔京丹後市立丹後幼稚園〕

評価項目	重 点 目 標	前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
小中一貫教育の推進(保幼小接続)	・『丹後学園』の教育目標を踏まえ、学園の基本方針に基づき、取り組みを進めます。 ・保幼小中の連携を密にし、スマーズな接続を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期に育てたい力の基本的生活習慣、人の話を聞く、自分の思いを伝える、人を思いやる心、やさしさ、元気な体は遊びの中から日常にまた意識的に育んでいきたい。そのためには生き生きとでき、心わくわくする環境構成を常に考えていかなければならぬと考える。 ・挨拶運動は丹後学園のにこちゃんハッピーピーチーとあわせて引き続き取り組んでいきたいと思う。しかし、挨拶もマンネリ化せず且つ受動的にならず、自主的に声が出来るよう配慮していかなければならないと考える。 ・「言葉の力」を意識し、保育全般に子どもの自主性を引き出す工夫をしていかなければならない。 	<p>合言葉「えがおおきらきら たんごのわ ～えがおであつたかはーとをつなげよう～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動を通して人ととのつながり、いたわりやしさ、思いやりの心を育み、豊かな人間性、社会性をもつた幼児を育成する。 ・聞く力や話す力が身に付くよう、計画的に取り組み、自分の思いを言葉で表現するなど言葉の力の向上を図る。 ・保護者や地域との連携、また、保幼小中連携を深め、様々な体験や活動を取り入れ、たくましく健やかな体と心をもつた幼児の育成に努める。

教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 多くの体験を通して心身ともにたくましく、創造的、意欲的に遊ぶ幼児を見育成する。 遊びを通じていたわりや優しさ、思いやりの心を育む。 言葉の力の向上人の話を聞く、自分の思いを伝えることができる力を養う。 自分から進んで挨拶や返事ができるような環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体を使った遊び（体操・リズム運動・散歩・なわとび・竹馬・固定遊具等）を積極的にとり入れる。 小動物の飼育、栽培物の世話を一緒に行う。 異年齢活動（チーム活動、クッキング、運動会に向けての活動等）を通して年少児へのいたわりの気持ちをもつたり、年長児に対して憧れの気持ちをもつたりできる環境設定を考える。 絵本や物語などに親しむことで、言葉の力を豊かにする。 教師が幼児の話にしつかりと耳を傾ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇年間通して体を使った遊びに取り組み、体力づくりができた。特に5歳児は竹馬、雲梯、大縄跳びなど取り組む中で、あきらめず根気よく挑戦する姿が多くみられ、出来た喜びが様々な意欲につながっていた。異年齢の子ども達には憧れの存在として、目標となる姿となつた。 〇異年齢活動はいたわりや思いやりの気持ちを育てる重要な活動であった。今後も続けていきたい。 〇△教師が一人一人の子どもの話や気持ちをゆっくり聞くことを意識してかかわり、情緒の安定から聞く態度を養うよう努めた。しかし、心が落ち着かず一方的に話をすると、人の話を聞けない子どもも多い。今後も子どもと信頼関係を築くことから言葉力の向上にむけ取り組みたい。
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や未就園児の保護者のコミュニケーションの場をつくり、子育ての安定を図る。 支援をする幼児に対しての支援策を園全体で考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ママのおしゃべり会など子育てについての悩みなどを出し合える場をつくる。 子育て支援センターや園開放、園庭開放により未就園児との交流をもつ。 子育て講演会への参加をよびかける。 預かり保育、一時預かり保育制度の活用 支援をする幼児に対して保健師や他機関とも連携をとり園全体で支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> △町内の出生率が低くなっていることに加え、低年齢での入園が多い為、子育て支援センターの利用者数は少ない。 △子育て講演会では多くの方に参加してもらえるよう、チラシや連絡網で呼びかけたが少なかった。夜出ににくいことや仕事で参加にくい状況もあるため、時期や時間は今後も検討が必要である。 〇要支援児について保健師と連携を密にとり、園児の様子にあわせ他機関に繋げたり、療育につなげたりすることができた。 〇地元の『百姓一揆』グループの方々とのつながりが定着しており、今年度も「畑の先生」として様々な栽培活動に協力していただいだ。栽培活動を通して、観察力、収穫の喜び、手間や苦労、食への関心などを高めることができた。 △園だよりや家庭訪問、懇談会などを通して園や子どもたちの様子を理解してもらうよう努めたが、伝わりにくい部分もあった。 〇ホームページを活用した。
家庭教育と地域との連携	家庭教育の方々から様々なことを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 園の様子や活動などを地域の方々に知つてもらう。 園だよりやクラスだより、また家庭訪問や懇談会などに、家庭と連携し家庭の教育力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 農業従事者の方々に栽培についての話をしていたとき、親子で一緒に栽培について考える機会を設けたり、自分たちで育てていく楽しみを味わったりできる体験を教えていただきながら、一緒に進めていく。 園内外で保護者の方や地域の方に挨拶をする「挨拶運動」などの取り組みも進めていく。 保護者の話や相談に丁寧に耳を傾け、一緒に問題解決に向けて進めていく。

平成29年度学校評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔京丹後市立弥栄幼稚園〕

評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)	
				評価基準	評価結果
小中一貫教育の推進(保幼小接続)	○弥栄学園教育目標の具現化に向け、弥栄子ども園教育活動を充実させる。 ○弥栄学園保幼小の連携教育活動を充実させる。	○「聞く力」「折り合いを付ける力」の育成を図る。 ○年間を通して計画的に幼稚小連携教育活動を充実させ、小1プロграмの解消を図る。 ○教職員の合同研修会・研究協議を通して、幼稚教育から小学校教育への円滑な接続を具現化するためのアプローチプログラム、指導方法について研究する。	○主体的な活動・体験活動の充実により、生きる力の基礎基本の育成、心の教育への理解を広げ、子育て支援の充実を図ることができた。 ○「弥栄こども園」の教育活動への目指して、教育活動・丁寧な発信の充実を図ることができた。 ○弥栄学園小中一貫教育の推進により、保幼小連携教育活動の充実を図ることができた。 △各種たより、園HP、電話による家庭連絡、懇談会、参観等、家庭との効果的な情報連携の工夫を行う。	○生き生き遊ぶ・言葉で伝え合う・互いに思いやり協同する力を育成するための日常教育活動・異年齢活動・地域との連携の仕組みを改善し、教育活動、子育て支援の充実を図る。 ○保幼小の効果的接続を目指し、アプローチプログラム改善、保幼小連携教育活動・共同研修の充実を図る。 ○全ての園生活をとおして、弥栄学園で進める基盤となる「聞く力」「折り合いを付ける力」の育成を図る。 ○事例研修・園内研修を充実させ、指導力向上を図るとともに、新幼稚園教育要領・保育指針への準備を着実に進める。	○生き生き遊ぶ・言葉で伝え合う・互いに思いやり協同する力を育成するための日常教育活動・異年齢活動・地域との連携の充実に努めた。 ○年間を通して計画的に幼稚小連携教育活動を充実させ、小1プロграмの解消に努めた。 △さらには、教職員の合同研修会等を通して、幼稚教育から小学校教育への円滑な接続を具現化するための指導方法の研究を充実させる。
教育課程	○明るく伸び伸びとした行動力、健康・安全な生活に必要な習慣や態度を育成する。 ○園生活での身近な人と親しみ、園わりを深め、豊かな人間関係を結ぶ力を育成する。 ○身近な環境や自然に自ら関わり、発見や考えたことを生活に取り入れる力を育成する。 ○自ら思いや考え方を伝えたり、人の話を聞いたりする、豊かなコミュニケーション力を育成する。	○主体的な活動、体験活動を充実させる。 ・主として活動する中で、生活に必要な習慣や規律を自ら取り入れる力を育むための健康・安全・生活指導の充実を図る。 ・園内外の自然・自然物へ主として体験活動の充実を図る。 ・豊かな人間関係を育む力を持つために、異年齢活動の充実、地域連携教育活動の充実、保幼小連携教育活動の充実を図る。	○園生活における力の基礎基本の徹底を図ることができた。 ○生き細かい日常生活(クッキング、交通安全啓発事業)により衛生・園内事故防止・食育・交通安全・自分の命を守る指導・教育活動の充実を図ることができた。 ○園生活の全ての聞く場面・思いや考えを伝える場面や創作劇の取り組みを通して、言葉を介した教育活動を充実させ、表現力の育成を図ることができた。 △さらに、絵本活用、話し合い活動の充実を図る。	○生きる力の基礎基本の徹底を図ることができた。 ・衛生指導、園内事故防止指導、交通安全啓発事業等、自分の命を守る指導・教育活動の充実を図る。 ・豊かなコミュニケーション力を育むため、読み聞かせ・絵本等言葉の表現を楽しむ場面、保育士の指示・教えを聞く場面、友達の思いや考えを聞く場面、自分で思いを伝える場面、話し合い活動の充実を図る。	○生きる力の基礎基本の徹底を図ることができた。 ・衛生指導、園内事故防止指導、交通安全啓発事業等、自分の命を守る指導・教育活動の充実を図ることができた。 ○園生活の全ての聞く場面・思いや考えを伝える場面や創作劇の取り組みを通して、言葉を介した教育活動を充実させ、表現力の育成を図ることができた。 △さらに、絵本活用、話し合い活動の充実を図る。

教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ○心の教育を充実させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・当番活動、飼育栽培活動、異年齢活動等を通して、思われる心や自尊感情を育むこと。 ・人権意識、豊かな感性を育むため、園生活中で触れる悲しみ、喜び、温かさ等、人の心を感じる場面を共有する機会を大切にする指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○心の教育を充実させることができた。 <ul style="list-style-type: none"> ○当番・生き物飼育・野菜栽培・異年齢活動等を充実させ、思いやる心や自尊感情を育むことに努めた。 ○園生活の中で触れる喜び、悲しみ、温かさ等、人の心を感じる場面を共有する機会や地区サロン訪問などを通じて、豊かな感性や人権意識の醸成に努めた。
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ○発達年齢に応じた家庭教育目標について、計画的に発信し、家庭の教育力を向上させる。 ○保護者の子育て不安や悩みに寄り添い、安心して子育てができるよう、子育て支援を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各家庭へ「健康」「人間関係」「環境」「表現」「言葉」「表現」に関する家庭教育目標を、園・担任より「子育て相談」「保護者会」「懇談会」等を通して発信し、年齢相応の生きる力の育成を図るための子育て支援を充実させ、家庭の教育力の向上を図る。 ○日的な子育て相談の場、園行事による親子体験活動や保護者同士の交流・研修の場を工夫し、子育て支援を充実させる。 ○保護者と毎日直接会話をする機会が減った事に対し、より効果的な子育て支援のため情報連携の工夫を図る。 ○発達特性、個々成長課題等について、個に応じた、丁寧な子育て支援の充実を図る。
家庭地域との連携		<ul style="list-style-type: none"> ○園開設3年目に当たり、さらに園・家庭・地域との連携の仕組みを整え、充実させる。 ○地域の環境・人材を活用し、子ども達の豊かな体験活動を充実させる。
次年度に向けた改善の方向性		<ul style="list-style-type: none"> ○全ての園生活をとおして、弥栄学園で進めることとなる「聞く力」「折り合いを付ける力」の育成を図る。 ○保幼小の効果的接続を目指し、アプローチプログラムによる教育活動・幼小連携教育活動・共同研修の充実を図る。 ○生き生きと遊ぶ・言葉で伝え合う・互いに思いやり協同する力を育成するための日常の教育活動・異年齢活動の充実を図る。 ○計画的に事例研修・公開保育等園内研修・電話による家庭連絡、園HP、電話による家庭連絡、懇談会、参観等、家庭・地域との連携の仕組みを改善し、教育活動、子育て支援の充実を図る。

平成29年度学校評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔京丹後市立かぶと山幼稚園〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
幼稚園教育目標「元気な体と豊かな心、生きる力を持ったたくましい子ども」 『元気 勇気 笑顔 つながれ仲間』 ～友達とともに夢中になって遊び込む子どもをめざして～	1 幼児自らが興味関心をもつて環境にかかる力、心豊かでたやすく生きる力を育てる。 2 人とのかかわりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てる。 3 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考え方を表現できる力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ○園外保育を通して自然環境に興味や関心をもつた。また、園近隣の果樹園沿道やマラソンをし、特に5歳児については就学に向けて体力を増進させることができた。 ○保幼小連携では、小学校プールでの「チャレンジプール」が、自信をつける良い機会となつた。水が苦手な子どもも水に親しみをもつてるようになつた。 ○幼児理解と保護者との信頼関係作りに努めた。 △保小中と連携し、常に保育・教育の向上に努める。 △保護者に「幼児期に大切な親子のふれあい」や「生活習慣の大切さ」に気づいてもらい、幼児が情緒を安定させ、意欲的に活動していくような取組を工夫する。 △挨拶をはじめ人と心を通わせる言語活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な体験や遊びの場を意図的・計画的に取り入れ、主体的に協同的な活動ができるよう環境構成に努める。 ○自分の思いや考え方を言葉で表現できる力を育む。 ○協同的な遊びや生活を通してルールや他人を大切にする心を育てる。また、家庭や地域と連携して規範意識や道徳性・社会性の芽生えを育む。 ○保幼小中連携を深める。 ○特別な配慮を必要とする幼児に対し、適切な支援が受けられるよう支援体制と支援システムを整え、保護者や関係機関、小学校との連携に努める。 ○子育て支援に努めると共に、家庭教育力向上を図る。
小中一貫教育の推進(保幼小接続)	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
		<ul style="list-style-type: none"> ○「久美浜学園」共通の「目指す子ども像」「教育目標」に向けて一貫性のある指導をしていく。 (1) 小学生や中学生との交流を行う。 (2) 小学校との連携 (3) 運動会見学・体験入学・授業体験・プール体験・学習発表会見学等 (4) 保幼小の連携 • 合同研修会・教師、保育士の交流・アプローチプログラムとスタートカリキュラムの評価と改善・入学までにつけたい力と入学後に継続したい取組の明確化等 	<ul style="list-style-type: none"> ○「久美浜学園」研修会を通して小中の教師、保育所、保育園の保育士と一緒に学ぶ機会が持てた。 ○保幼小連携部会を通して、アプローチプログラムやスタートカリキュラムの見直しを行い、改善した。また、幼児や小学生の実態交流をしたり、新学習指導要領や新幼稚園教育要領、新保育指針等で大切にしたい取組を再確認したりした。 ○昨年度から行つた小学校での「チャレンジプール」は、小学校のプールを知り、水に慣れ親しんで自信をつける良い活動になつた。また、小学校の教師と交流する機会にもなり、子ども達は張り切つたり、打ち解けたりした。 ○年長児交流会で3園混合のグループでかぶと山登山をしたことは、言葉をかけたり考えたり、一緒に目的に向かう良い体験だった。 <p>△研修会への職員の参加体制を工夫する。</p>

教育課程	<p>(1) 様々な体験や人との出会いの機会を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然の中で、五感を豊かにする。 ・砂、泥、土、粘土、水・草木、花、野菜等自然物 ・虫、魚、飼育物等 生き物 ・山、森、海、果樹園、田んぼ、旧神野保育所園庭、神社、牧場、かぶと山公園、展望台等 環境 <p>○様々な行事参加や体験活動をする。</p> <p>○幼児が遊びや生活の中で主体となるような環境構成を工夫する。</p> <p>○異年齢交流をする。</p> <p>(2) 感動体験の機会を設定したり、言葉で思いを発表する機会を設定したりする。</p> <p>(3) 挨拶を奨励する。</p> <p>(4) 絵本や物語に親しみ機会を設定する。</p> <p>(5) 自立心を育てるような機会の設定をする。</p>	<p>○特性を持った子どもも園で主体的に活動しようとするためにはどのような環境構成や教師の援助、関わりが必要か模索しながらの保育であった。クラス会議、学年会議で話し合うことで教師や保育士が共通理解し、同じ気持ちで関わることができた。チームワークが子どもたちに繋がった。</p> <p>○5歳児が果樹園コースをマラソンコースとして活用。マラソンを通して体力増進、持久力増進に繋がった。</p> <p>○「友達とともに夢中になつて遊び込む子ども」を目指して環境や教師の関わりを工夫してきた。一人一人の自発性を大事にしながら、一人一人に寄り添った保育をかけた。遊びを通して考えたり工夫したり、自分の思いを様々な方法で表現したりした。友達と一緒に遊びを進める面白さも体感していた。</p> <p>○地域の方の大きな支援を得て田んぼで米作りに関わることができた。田んぼでの泥んこ田植え、稻刈り体験、収穫米クッキング等は子どもたちの心を動かす素晴らしい活動だつた。</p> <p>△落ち着いて話を聞く、挨拶をする子どももが増えたが、方策の工夫の必要性を感じる。</p>	<p>○温かい雰囲気で子育ての応援ができるよう園となるよう、職員一人人が努めた。機会を逃さないよう担任や担当の教師、保育士が保護者と丁寧に関わって、一緒に子育てをしてきた。信頼関係も構築でき、子どもたちが成長に繋がった。</p> <p>△「目を合わせて話を聞く」意識を向上させる。</p>	<p>○「5歳児お泊り保育」を保護者会本部役員や保護者、高校力ヌー部等に支援をしてもらひ行つた。自立心の芽生えを育んだ。</p> <p>○保護者の交通安全ボランティア等、保護者の協力が得られた成果は大きい。</p>
子育て支援	<p>○家庭での子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。</p> <p>○家庭の教育力向上を図る。</p>	<p>(1) こども園でおしゃべり会・子育て相談（随時・毎月）</p> <p>(2) 園開放・園庭開放</p> <p>(3) 預かり保育、一時預かり保育の活用</p> <p>(4) 支援センターの利用</p> <p>(5) 子育て講演会</p> <p>(6) 猛談会</p>	<p>(1) 田植え体験・稻刈り体験ボランティア</p> <p>(2) 交通安全ボランティア</p> <p>(3) 絵本の読み聞かせボランティア</p> <p>(4) お茶会ボランティア</p> <p>(5) 保護者会の協力 等</p>	<p>○「5歳児お泊り保育」を保護者会本部役員や保護者、高校力ヌー部等に支援をしてもらひ行つた。自立心の芽生えを育んだ。</p> <p>○保護者の交通安全ボランティア等、保護者の協力が得られた成果は大きい。</p>
家庭・地域との連携	<p>○家庭地域との連携と子育て支援を行つ。</p> <p>○保護者同士や保護者と地域がつながり、園と協力して「久美浜を支える人」育成の土台づくりを行う。</p>	<p>・久美浜学園として「学力向上」「言葉の力の育成」「不登校解消」という目標を意識した具体的な方策について考え、「目を合わせて話を聞く」「共感体験をする」取組をし、家庭教育力の向上を目指す。</p>		

平成29年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立峰山小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
1 就学前から中学校卒業までの10年間を見通した一貫性のある教育を推進する。	○「わかる・できる」授業づくりが充実し、学力の充実・向上と豊かな人間性のはぐくみが進展した。	○思考力・判断力・表現力などの能力を一層伸ばす指導を教育課程全体を通じて進める。	○思考力・判断力・表現力などを指導を一層伸ばす指導を教育課程全体を通して進める。
2 授業力の向上に全力を尽くす。	○特別な支援をする児童一人一人の教育的ニーズに応じ、保護者との合意形成を図りながら得意分野を積極的に伸ばす指導が児童の成長につながった。	○授業・特別活動・生徒指導を一体的に取り組み、自らの学習・生活を一層豊かにさせる指導を進める。	○授業・特別活動・生徒指導を一層豊かにさせる指導を進める。
3 子どもたちが笑顔で楽しい学校生活が過ごせるよう全力を尽くす。	△学校不適応の未然防止を目指し、生徒指導を機能させて児童の主体的・協働的な授業を進めが必要がある。	△学校不適応の未然防止を目指し、生徒指導を機能させて児童の成長につながった。	○一人一人の教育的ニーズに応じるとともに、どの児童も参加しやすい授業や行事を設計する。
4 地域に貢献し地域とともにある学校づくりに全力を尽くす。			○地域社会の一員としての自覚を高める。
評価項目		具 体 的 方 策	
教育課程 学習指導	○学習意欲を高めて思考力・判断力・表現力などの能力を一層伸ばす指導を教育課程全体をとおして進め、学習内容を確実に定着させる。	○峰山学園小中一貫教育の取組とリンクさせ、指導目標と学習のめあて、評価を事前に準備して、目標と指導と評価が一体となつた授業を行う。 ○京丹後市小中一貫教育モデルカリキュラムを活用し、小中9年間を見通した一貫性のある言語活動や学び方の指導を行う。 ○授業づくり、家庭学習、補習・補充の充実をセットにした「スリーアップ作戦」を各学期に約3～4週間、年間で約3ヶ月間を設定し集中的に取り組む。 ○学習に関する児童アンケートをもとに検証し、指導方法の改善・開発を進める。	○峰山学園で重点としている学力・能力の向上のための授業を学校全体で研究実践し、主体的・対話的・対話的に学び合う学習スタイルが全ての学級で実践された。その結果、児童アンケートで「相談したり話し合つたりして学習がよく分かる」と回答した児童が97%となつた。 ○児童アンケートでは「勉強の時間が来るのが楽しい」と感じる児童が、昨年度76%から本年度は91%に増加した。また、発表や態度等の他の学習に関する項目においても、肯定的な回答をした児童が90%を超えた。 ○家庭学習習慣形成の取組の結果、「宿題を忘れずにしている」と自己評価する児童が96%となつた。 △主体的・対話的な学び方を定着させ、思考力・判断力・表現力等の向上を確かなものにする。
生徒指導	本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	○生徒指導の3機能を生かし、生徒指導の機能が發揮された基盤として、生徒指導の3機能を授業の中で発揮させる。 ○自らの意志で主体的に問題を解決する態度を育てるため、共感的に理解したり自己決定をしたりする場を増やした指導を行う。 ○話合いの活動を重視し、児童が互いに学び、理解し合い認め合う指導を行める。	○峰山学園「小・中学校で共通確認する指導の視点」を基盤として、生徒指導の3機能を授業の中で発揮される。 ○一人一人の児童が目標を持ち、その実現を目指して話合つたり折り合いをつけたりする諸活動により、「話し合いで解決している」92%「人のために自分の力を使っている」95%と児童アンケートの数値が上昇した。 ○「先生はよいところを分かってくれる」98%「先生はできるまで教えてくれる」99%など、児童理解が深まつた。それにより児童の自己肯定感を高まり、問題事象や不登校(傾向)の減少・解消が進んだ。 △共感的人間関係をはぐくむ特別活動に一層改善する。

<p>健康（体育）・安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ○楽しく体を動かす習慣を身に付けさせながら、体力・運動能力の向上を図ることとともに、早寝早起きなど基本的な生活習慣を確立する。 ○新型感染症等リスクが相対的に高まっていることから、予防対策の基本である手洗いを生活習慣として定着させる。 	<p>○取組期間を設けて、朝マラソン、鉄棒、縄跳びなど、朝の体力づくりに取り組む。</p> <p>○家庭との連携を図りながら、特に早寝早起きができるようにするための点検活動を行い、生活を改善する取組を強める。</p> <p>○新型感染症等リスクが相対的に高まっていることから、予防対策の基本である手洗いを生活習慣として定着させる。</p>	<p>○体力づくりの日常的諸活動に目標を持つて取り組み、マラソン大会で全ての児童が完走するなど、目標達成に向けて努力する児童が増えた。</p> <p>△早寝早起きは依然として課題であり、基本的な生活習慣の確立に向けて課題と取組を家庭と一層共有し、連携する必要がある。</p> <p>△手洗いの習慣は定着したものの、インフルエンザに罹患した児童が増加した。</p>	<p>○教育活動全般でタイムママーを使ったり予定表・時程表を掲示したりするなどの工夫を重ね、集団活動が苦手な児童を含めて全ての児童が行事や集会に見通しを持つて参加できるようになつた。</p> <p>○保護者と定期的に懇談し、青年期や就労等を見通した成長への願いを共有して支援を進めることができた。</p> <p>○特別支援学級において、児童の得意と関心に基づいた合科的な生活単元学習を開発し、一年間を通して実践したことで、個々の児童の成長につながつた。</p> <p>△個々の児童の特性に配慮しつつ、一齊指導や学び合いを基本とした授業を充実するための研究実践を進める。</p> <p>○校内研修以外に、指導教諭等による校内での授業公開や自主研修等を複数回実施し、また、授業を学園内・市内・市外へ年間12回公開する中で、指導力向上の研修が質量ともに高まり、授業の具体的な改善につながつた。</p> <p>△峰山学園小中一貫教育のⅠ期・Ⅱ期に対応した教育課程を理解し、9年間を見通した系統的で連続性のある指導が展開できるための研修を深める。</p>
<p>研修（品質向上の取組）</p>	<p>○授業研究を充実させ実践的指導力の向上を図る。</p>	<p>○指導教諭を中心とするペテラン教員の授業づくりや実践経験から学ぶ機会を増やす。</p> <p>○教材研究や授業研究の質を一層高めるため、学校外への公開授業等を積極的に活用する。</p> <p>○指導案を準備しない普段の授業から学び合う研修を行う。</p>	<p>○指導教諭を中心とするペテラン教員の授業づくりや実践経験から学ぶ機会を増やす。</p> <p>○教材研究や授業研究の質を一層高めるため、学校外への公開授業等を積極的に活用する。</p> <p>○指導案を準備しない普段の授業から学び合う研修を行う。</p>
<p>次年度に向けた改善性</p>	<p>1 生徒指導の機能を生かし、思考力・判断力・表現力・協働性・人間性等の能力・資質をはぐくむ主体的・対話的な授業を一層追究する。</p> <p>2 一人一人の児童の願いと目標を実現するための話合い活動に力点を置いた特別活動に改善し、共感的な人間関係をはぐくむ。</p> <p>3 一齊指導や学び合いの授業を基本としつつ、個々の児童の特性等に応じた個別配慮、個別対応を工夫する。</p> <p>4 峰山学園小中一貫教育のⅠ期・Ⅱ期に対応した教育課程を工夫し、9年間を見通した系統的で連続性のある指導を行う。</p>		

平成29年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立いさなご小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
峰山学園の教育目標である「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」を目指して教育活動を展開する。		○ 学校再配置1年目、児童は落ち着いた状況で過ごし、充実した教育活動が推進できた。 △ 自分の思いや考え方表現する力を高める取組や家庭学習・読書など保護者との連携を深め、取組をさらに進める学力向上を図る必要がある。	目指す子ども像 1 意欲を持って自ら学ぶ子ども 2 思いやのある子ども 3 進んで心と体を鍛える子ども 「目指す子ども像」の育成のために定めた指導内容を組織的に推進する。
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	1 ねらいが明確で児童がわかりやすい授業を計画的に進めること 2 個に応じた指導体制を確立させ、基礎学力の定着と確かな学力の進展を図る。 3 知識・技能を用いて活用する授業づくりを進めること	1 算数を研究の柱とし、規律があり、ねらいが明確で児童がわかる授業を研究授業等によって教員が学び合う。府小研の研究協力校として、確かな学力の育成を目指す算数科の授業研究を進める。 2 ドリル、放課後の補習・発展学習等により、授業だけでなく、学級での活動全体を通して、国算の基礎・基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。 3 身に付けた知識・技能を用いて考える力を育成する授業と学習意欲を高める授業を行い、学力充実を図る。	○ 年度当初から学習規律、規範意識の向上を学校生活の基礎に位置付けて指導を行ってきた。児童も落ち着いた状況で学習・行事等に取り組むことができた。 ○ 学習内容の基礎基本を進めることができ、児童は、おおむね意欲的に学習することができた。 △ 学習内容の基礎基本の定着を目指して家庭学習の習慣化を目指した。しかし、すべての児童が定着した状況まで高められなかつた。また、自分の意見、思いを言葉として表現することも課題として残っている。
生徒指導	1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。 2 規範意識を身に付けさせ、いじめを許さない心を育て、行動できるようにする。また、発達段階に応じた仲間意識を育成する指導を進める。 3 良さを認め合う活動を積極的に取り入れ、児童の自己肯定感を高める。	1 特別支援教育部、教育相談部を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、連携した指導を進める。 2 全教育活動を通して道徳教育・人権教育の推進、規範意識の醸成によりいじめの防止を行う。また、「他の人とのかかわりにすること」についての指導を重視する。 3 教師が児童の良さをまた児童同士がお互いの良さを通じて、多様な異年齢集団での活動の中で計画的に伝えることで、自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。	○ 支援を必要とされる児童についての状況を全教員で共通理解を図ることができた。その上に、組織的に支援をすることができた。 ○ 生徒指導の基本に、規範意識の高揚と他を思いやる心を位置付けて指導を積み上げてきた。また、児童会は、絆をキーワードにして取組を行い、規範意識の向上、思いやりの心の育成に役割を果たした。 △ いろいろな場面で、児童に言葉で表現することを大切にして指導を積み上げてきた。しかし、不十分さがあり、さらに自分の思いや意見などが言葉で表現できるようになる。

健康（体育）・安全	1 全校的な体力にかかる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、学校を休まない強い体を作る。 2 困難なことにもねばり強く挑戦していくことを育成する。	1 体育部、健康安全部等が中心となり、期間を決め、集中的に朝マラソンや朝縄跳び等の取組を行い、体育の授業と運動することと、計画的でタイムリーな児童への指導、保護者への啓発により、体力(特に持久力)向上と休まず学校に来ようとする意欲を高める。 2 学級、学校での取組において個々のめざす目標を発達段階に応じて明確にし、特に「自分自身に関すること」についての指導を重視することで、ねばり強く挑戦する態度を高める。	○体育の授業、また、朝マラソン、朝縄跳びなどを期間を決めて行うことができた。児童も一生懸命に取り組むことができた。 ○当番活動、係活動、委員会活動など日常の活動を大切にして指導を行ってきた。発達年齢に応じて、粘り強く取り組む姿が見られた。	
	開かれた学校づくり	1 丁寧で分かりやすい双方に向の情報発信による積極的な学校公開を進める。 2 信頼される学校経営を行い PTA、地域の関係機関、幼稚園・中学校等との取組により連携を進める。	○定期的に学校だよりを発行し、また、ホームページも定期的に更新し、情報公開を行った。 ○授業参観、行事参観をして本校の教育を広く紹介する場をもつた。 ○保護者アンケートなどからおおむね本校の教育に対して理解を得ている。	
研修（品質向上）		1 職員の指導力向上に向けた研修を行った。個人に応じた指導法について研修を進めると。 2 峰山学園が目指す10年間の連続した学びと育成を目指した研修を進める。	○京都府小学校教育研究会算数科教育研究協力校として、丹後教育局、京丹後市教育委員会の指導助言を受けながら、職員の指導力向上に向けた研修を行う。 ○職員会議や校内研修の校長通信を活用して、個人に応じた指導法についての研修を行う。 ○峰山学園の目指す児童像を共有し、その実現に向けた取組のあり方について研修を進める。	
		次年度に向けた改善の方向性	本年度、規範意識の向上、思いやりの心の育成を指導の基本にして、教育を進めてることができた。このことは、平成30年度も大切にする。その上に、「ことばの力の育成」をすべての教育活動に位置付け、教育を進める。また、学力向上については、家庭学習の内容、時間等を学年で系統立て、その定着、習慣化を図る。	

平成29年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立新山小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもたちの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】		<ul style="list-style-type: none"> ○「学習意欲の向上」「試行錯誤」の3つの切り口から授業改善を試み、授業改善が進んだ。 ○生徒指導の3機能を生かした学級経営に努め、児童個々の課題と共に、教職員が指導課題を明らかにしながら取組を進めることができた。 △児童自らが正しく主体的に判断し行動できる力を培う。 △校内事故の発生件数が多く、学校全体の危機管理意識の徹底を図る必要がある。 △家庭学習習慣の定着を図っていく。 	<p>「今日が楽しく、明日が待たれる学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 生徒指導の3機能を生かした「わかる」「できる」授業を推進し、確かな学力を育成する。 2 言葉の力、コミュニケーション能力を育成する。 3 学園評価・学校評価の結果に基づく教育実践の改善を図り、学校経営を充実させる。 4 丹波小学校との再配置に向けた取組を充実させることで地域・保護者・児童の信頼に応える。
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学力実態や学習状況に基づく授業改善を進め、学習意欲が高まる魅力ある学習指導を行う。 ・自ら課題を見つけ主体的に課題を解決する力、豊かな表現力、豊かな人間関係を生み出す力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標と指導と評価の一体化に基づく授業実践を蓄積する。 ・体験活動、言語活動を通して言葉の力、思考力・判断力・表現力を育む。 ・生徒指導の3機能を生かした学級経営・授業実践を推進する。 ・豊かな人間関係を構築する学級経営を基盤とし、学び合いを推進する。 ・学園の共通指導の視点を意識して日々の授業を推進し、児童の力を育む。 	<p>○峰山学園「生徒指導の3機能を生かした学級経営」をじめることができた。</p> <p>○先行的な取組として言語活動の充実が図られた学習活動をどの教科でも取り入れ授業改善に取り組む事が出来た。また、「食」をテーマとして総合的な学習時間や生活科、他教科との関連を図りながら探究活動や課題解決学習の中で表現力の育成を図った。</p> <p>△目標と指導、評価の一体化に向けた研究を進める必要がある。</p> <p>○規範意識の醸成、当たり前のことが当たり前にできる児童を目指し、企画委員会(生指担当、特支担当、教相担当等)で全校的な取組を検討・提案し職員の動きを作り出し児童の行動に繋がるようにしてきた。</p> <p>○「スマイル見つけ」で児童の行動面を肯定的評価していくことで意識変革を行ってきた。</p> <p>○不登校傾向児童の保護者、他機関と連携し解消に向け組織的に対応を行い、改善に向かった事例もある。</p> <p>△該当児童担任の負担感を軽減し更に組織的対応を図る</p>
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤と			

<p>健康（体育）・安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく体を動かす習慣を身に付けさせ、体育・スポーツ活動に親しむ能力や態度を育成し、体育・運動能力の充実を図る。 ・家庭との連携を図り、基本的生活習慣を確立する。 ・「生きる力」に繋がる食育指導を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝マラソン、朝縄跳び、遊び等を通して基礎体力の向上を図る。 ・心と体と命の教育、薬物乱用防止教育を取り組む。 ・生きる力に繋がる食育・保健指導に取り組む。 ・「生き生き頑張り週間」を学期毎に設定し、基本的生活習慣の確立に努める。 ・登下校の安全を守るために地域・PTAと連携した取組を進める。 ・児童の危険回避能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝マラソン、朝縄跳び等を通して、体力作りに励む児童が増え、体力・気力の向上が見られた。 ○生きる力に繋がる「食育」指導を全校的に行い、児童や家庭の食に対する意識を高めることができた。給食時間に食事中のマナーを指導し改善が図られた。 ○防犯教室、薬物乱用教室、避難訓練等を計画に則り実施でき、安全に対する意識を高めることができた。 △前半は怪我が多く発生した。安全に対する児童の行動意識を高める必要がある。 △積雪時の通学路に関わっての安全対策を進める。
<p>特別支援教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザイン化を意識した教育活動を開催し、誰もが学びやすい環境を整える。 ・個別支援が必要な児童の家庭との連携を図り、積極的な支援を行う。 ・障害についての理解を深め、児童が自他の良さを認め合い尊重し合える態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害等を含む特別な支援を必要とする児童に対する支援の在り方を組織的に探究し、校内体制の充実を図る。 ・ユニバーサルデザインの視点を授業や生活に取り入れ、学びやすい環境を整える。 ・個別の支援計画、支援計画等による個に応じた指導の推進と指導方法の工夫改善に努める。 ・様々な障害についての理解教育を進め、児童が自他の良さを認め合い尊重し合える態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の配慮が必要な児童に対して、家庭との連携のもとに対応や手立てを考え、支援を行うことで児童の安定に繋がった。面談を定期的に、保護者をサポートすることで安心感に繋げることができた。 ○専門的な側面から外部講師を招聘して研修をして研修を行い、職員の障害に対する理解を深めることができた。児童に対しても理解教育を丁寧に行っており、友好的な関係が築けている。 △発達障害等に対する保護者の理解が十分に図れないケースもあり、引き続き家庭との更なる連携の必要がある。
<p>研修（資質向上の取組）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの使命と責任を自覚し、豊かな人間性、広い社会性、高い専門性をめざした研修を行い、実践的指導力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重点研究を進めることで、「主体的・対話的で深い学び」について探究していく。 ・学園で作成する総括テストの実践をもとに「目標と指導と評価の一体化」を意識した授業を追求する。 ・市の給食研究大会の実践発表校として生きる力に繋がる「食育」の研究を組織的に進めます。 ・教科指導力、生徒指導力の向上、課題対応力の向上、配慮児童への支援の充実を目指した研修を充実させる。
<p>次年度に向けた改善的方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校再配置により丹波小学校児童と新生「しんざん小学校」を筑いていくことになる。 ・学校としての教育理念に基づき、児童に未来を展望できる「生きる力」を育む教育活動を展開していく。 ・新学習指導要領の主旨に沿った学習活動を展開し、指導を工夫改善し、児童に確かな学力を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究推進部の提起を受け、グループ毎に研究を深めた。单元構想力、授業改善に向けた指導の在り方や思考ツール等について深く学び合う事ができた。若手教員・講師の授業の組み立てや授業構想に役立てることができた。 ○重点教科の研究に伴い、探究活動、課題解決学習を通して主体的な児童の学びがどの学年でも繰り広げられた。 △学力の定着・向上に向けた指導法の工夫・改善を図る。 △教育公務員として更なる研鑽に努める。

平成29年度学校評価自評報告

学校名〔京丹後市立丹波小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】	○算数科を中心とした授業等を通して、言語活動の重視や生徒指導の三機能を生かした授業改善が推進できた。児童の学習意欲が高まり、基礎・基本の定着も図られてきた。 ○様々な集団活動や話し合い活動を通して、自分達で考え創造し表現する力を高め、自己肯定感も高まってきた。 ○保護者や地域と連携した取組を進めることができた。 △児童の自主性・主体性を高め、更なる学力向上、基本的な生活習慣の確立をめざす。	1 児童にとって「わかる」「できる」授業、身に付いた知識・技能を用いて授業を育成する力を育成する。個に応じた指導や家庭学習・読書の習慣化を図り、基礎・基本の力を定着させる。 2 多様な人と関わる学習活動を設定し、児童の学びを深める。	1 確かな学力の育成 自己肯定感を高め、「わかる」「できる」授業を推進するため、共通した視点を踏まえ、小学校から中学校までの一貫した実践を進める。目標と指導と評価の一体化を進め。生徒指導の三機能を生かした授業実践を進める。 2 コミュニケーション能力の育成 生徒指導の三機能を踏まえた就学前から中学校まで一貫した積極的な生徒指導を進める。 3 「言葉の力を育てる」実践の推進 4 評価を見通した取組の充実
2 「峰山学園卒業時の子どもたちの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】	○研究授業や理論研修で目指す授業のイメージを共有し、授業改善が進んだ。児童アンケートでほぼ全員が「授業がわかる」と答える、学力調査・CRT等の結果では国語・算数とも全学年で平均を大きく上回った。 ○年間を通じた様々な取組と年3回の学力充実期間の強化により、家庭学習や自主勉強の質・量の向上、読書の習慣化が図られ、基礎学力の定着が見られた。 ○丹波地域の学習等で多様な人材活用や体験、新山小との合同授業等に取り組めた。「学習に意欲的に取り組んだ」という児童が昨年度以上に大幅に増加した。 △個への指導や表現力の育成をより充実させる。 △自ら更なる高みを目指して学習に向かう力を伸ばす。	1 A層・C層への具体的手立てを考え、全員の児童が分かる授業づくりをするとともに、目標と指導と評価の一體化、生徒指導の三機能を生かした授業、言語活動を重視し、主体的・協働的な学習活動について研究を行う。 2 ドリルタイム・言語タイム・放課後補習・4年ぶりスタート等による未定着内容の回復や個に応じた指導による基礎学力の定着を図る。また読書活動の充実や家庭と連携した家庭学習頑張り週間等の取組を年間通じて行う。 3 外部人材の活用や他校との交流、校外学習・体験活動等、様々な人と意欲的に学習できる場の設定を行う。	○課題に対し、月目標の設定と具体化、評価を行い、全校で成果を確かめつつ改善できた。また話し合い活動や互いの良さを認め合ふ場を設定することで、良好な人間関係や自己肯定感も高まってきた。 ○道徳、人権学習、日々の具体的な場面で、思いやりやいじめを許さない指導を行い、児童アンケートでは全児童が「いいじめはどんな理由でもいけない」「友達と仲良くしている」と答え、落ち着いた学校生活が過ごせた。 △困ったことを自分で話し合つて解決できる力や自己肯定感を更に高めていく必要がある。
3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】	本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	1 達成感を味わう経験や互いの良さを認め合い、伝え合う活動を積極的に取り入れ、児童の自己肯定感を高める。 2 発達段階に応じた「思いやり・親切」にかかることについて、道徳の時間を中心に全教育活動の中で、生徒指導の三機能を意識した指導を行い、自他の良さを認め合い、伝え合う場を設定する。 2 「思いやり・親切」にかかることについて、道徳の時間を中心に全教育活動の中で、生徒指導の三機能を意識した指導を行い、自他の良さを認め合うとともに、人権月間の取組等、計画的に指導を行う。またいじめ調査や日常的に個々の児童の状況を丁寧に把握し、早期に具体的、組織的な対応を行う。	1 目標を持たせ、達成させる指導を行う。また授業、学級活動、異年齢集団活動の中で、生徒指導の三機能を意識した指導を行い、自他の良さを認め合い、伝え合う場を設定する。

健康（体育）・安全	<p>1 全校的な体力づくりの取組を充実させ、基本的な生活習慣の確立により、強い体を作る。</p> <p>2 困難なことにも粘り強く挑戦していくことを育成する。</p>	<p>1 全校での朝の体力作りや体育的行事と体育の授業を運動させ、運動への意欲を高め、体力向上を図る。またPTAと連携した元気貯金の取組で、基本的な生活習慣の確立を目指す。</p> <p>2 学校、学級での取組において個々の目標を発達段階に応じて明確にする。粘り強く挑戦する態度を継続させるための手立てや指導を教科・道徳の時間や学級活動、学校行事を中心に計画的に行う。</p>	<p>○朝マラソンや縄跳び、陸上関係の行事に向け、目標を立て、毎日全校で取り組み、継続することで体力の向上や技能面も伸びた。アンケート結果では、運動への意欲も高まっている。</p> <p>○年3回の元気貯金（基本的な生活習慣の取組）は、家庭の協力で、昨年よりもよい結果となった。</p> <p>△取組期間以外の継続と、毎回出来ていない児童や家庭への啓発が課題である。</p> <p>○明確な目標を持たせ、やり切らせる指導で、児童アンケートでは「粘り強く」「挑戦する」ともに全校児童ができると回答している。どんな場でもやり切る態度を更に身に付けさせていくたい。</p>
特別支援教育	<p>1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。</p> <p>2 障害児者理解教育を進める。</p>	<p>1 教育支援部会を中心に、支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援の手立てを明確にしながら、組織的に指導を進める。また、年間を通した家庭との連携も重視して進める。</p> <p>2 年間通じて、理解教育の場を設定し、保護者への啓発も行う。</p>	<p>○毎月の教育支援部会で、気になる児童の実態把握と対応を組織的に検討し、関係諸機関とも連携し具体的な指導を進めることができた。（巡回相談・S C等）</p> <p>○面談や連絡を密に、保護者の協力を得て指導できた。</p> <p>△就学指導は丁寧に進めたが、難しさがあった。</p> <p>○4年の総合の学習や全校で障害のある人の講演会を聞く等、障害者理解教育を進めた。保護者への啓発を含め、更に理解教育を充実させることが必要である。</p>
開かれた学校づくり	<p>1 丁寧で分かりやすい双方向の情報発信と積極的な学校公開を進める。</p> <p>2 PTA・地域の関係機関等との連携を強化する。</p>	<p>1 たよりやHPで常時、児童の肯定的な評価、保護者等からの意見の反映等、双方向を意識した誌面作りを行う。また閉校に向けた保護者や地域住民の学校参観や行事の参加を促進する。</p> <p>2 PTAと連携し、「読書」「早寝」「褒めて育てる家庭教育」の取組を進める。また安全パトロール隊や学習支援ボランティア、ゲストティチャーを活用した授業等、地域一体となった教育活動を進める。</p>	<p>○たよりや通信、HP等で情報発信に努め、地域の方の学校行事等への参加の場も例年より多く設定し、運動会やたにわフェスティバル等で参加していました。</p> <p>△保護者からの意見に対して、丁寧な返し方や双方の紙面づくりは十分に出来なかつた。</p> <p>○親子読書、元気貯金や家庭学習、安全の見守り等、PTAと連携した取組が年間を通して実施できた。</p> <p>○閉校に向けた取組や行事、閉校記念誌作成や地域イベント、PTA事業等、保護者・地域連携協力の下に実施でき、児童に地域への愛着や誇りを持たせることができた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>しんざん小学校では、（※来年度閉校のため）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹波小学校・新山小学校、それぞれの伝統や良さを引き継ぎながら、教職員、児童、保護者、地域の人と共に、将来を見据え、これから児童に必要な新しい教育を開拓し、新たな文化・伝統を創り出していく。 ・児童が新しい学校で学ぶ喜びや意欲を持ち、大勢の新たな友達の中で、深い学びと豊かな心の育成を図る教育課程、教育環境を整える。 		

平成29年度学校評価自評書

学校名 [京丹後市立長岡小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)		
「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して「自己肯定感を持ち自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に努める。 (目指す子ども像) ・意欲を持つて自ら学ぶ子どもも ・思いやりのある子どもも ・進んで心と体を鍛える子どもも	○生徒指導上の大きな問題や不登校に関する事例はなく、児童は一定安定した学校生活を送ることができた。 ○高学年では主張的に行動する力が育てられ、充実した児童会活動を展開することができた。 △支援をする児童が多く、コミュニケーション能力や表現力の弱さからくる望ましい人間関係づくりに課題がある。 △学級経営の不十分さから課題の見られた学級では、学力課題が顕著で、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために組織的・計画的取組が必要である。 △教職員の指導力量の向上	○生徒指導上の大きな問題や不登校に関する事例はなく、児童は一定安定した学校生活を送ることができた。 ○高学年では主張的に行動する力が育てられ、充実した児童会活動を展開することができた。 △支援をする児童が多く、コミュニケーション能力や表現力の弱さからくる望ましい人間関係づくりに課題がある。 △学級経営の不十分さから課題の見られた学級では、学力課題が顕著で、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために組織的・計画的取組が必要である。 △教職員の指導力量の向上	○△生徒指導の3機能を授業の中で意識した指導を進めることを全体で確認し取り組んできたが、児童の自己肯定感の向上には課題が残っている。 ○外部講師を招き研究主題に基づいた研修会を実施したり、全教員で外部の研修会や研究発表会に参加したりして学級づくりや授業づくりについて研鑽を深め、教員の指導力量の向上に努めた。 ○峰山学園の授業研究会で学んだり、高学年の事前研究会に中学校教員にも参加してもらい指導案を検討したりする中で、9年間を意識した指導について考えられた。 ○朝読書は静かに取り組むことができる。 △トークタイムの設定など言葉の力の育成をめざし取り組んできだが、なかなか発表力の向上には至っていない。 △学力課題に基づいた達成目標を設定して漢字チャレンジ・計算チャレンジや家庭学習がんばり週間を実施し取り組んできたが、意欲的に学ぶ児童も多くいるものの、課題に向かえない児童もあり、その児童への対応については今後の検討課題である。 △学習ボランティアの支援を受けながら放課後補習等に取り組んだが、学力の2極化は改善されず、基礎学力の確実な定着までには至らなかつた児童が多い。		
教育課程 学習指導	○確かな学力の育成 (1) 自己肯定感を高め、わかる・できる授業の推進	(1) 自己肯定感を高め、「わかる」「できる」授業推進 ○生徒指導の3機能を意識した授業づくりを進める上で、児童の自己肯定感を高める。 ○外部講師、関係諸機関との連携を取り研修を工夫することで、児童も教師も楽しいと感じる授業づくりを進め、学ぶ意欲を育てる。 ○幼小連携・小中連携を進め、10年間を見通した指導を工夫する。	(2) 言葉の力の育成 ○アクティブラーニングを意識し、主体的な活動の場、対話的な学習場面が保障された授業づくりや考え方を含める授業づくりを進めることで言葉の力を育てる。	(2) 言葉の力の育成 ○アクティブラーニングを意識し、主体的な活動の場、対話的な学習場面が保障された授業づくりや考え方を含める授業づくりを進めることで言葉の力を育てる。	(3) 目標と指導と評価の一体化 ○実態に応じた目標設定と評価まで見通した指導スキルの工夫・充実、ボランティア等も活用した家庭後補習、学園統一の家庭学習の手引きを活用した家庭学習習慣の確立により、基礎学力の定着・向上を図る。 ○朝読書、読み聞かせ等による読書活動の充実

生徒指導	(1) いじめの根絶を目指して安心して自己表現できる居心地のよい学級・学校づくり	(1) いじめなく居心地のよい学級づくり・学校づくり ○機能する校内体制を確立し、いじめ・問題事象・不登校の未然防止、早期対応・早期解決に努める。 ○学級経営研修等、研修の工夫により指導力向上を図る。 ○豊かな体験活動や読書活動を生かした道徳的実践力を育成する。 ○児童と教職員、児童相互の協働的活動を通し、温かい人間関係の構築を図る。	(2) 自己肯定感を高める生徒指導の取組 ○安心して自己表現ができる学級・学校づくりの推進	(1) たくましく生きる力の育成 ○目標を明確に継続的な体力づくりの取組の推進 ○小中連携加配との連携による運動能力の向上 ○生命や体、健康に関する知識と実践的態度の育成 (2) 安心・安全な学校づくり ○教職員の危機管理意識の向上を図る研修の充実 ○安全点検や避難訓練の実施と地域と連携した安全体制・防犯体制の確立	(1) 重点研究に觸わり、学級づくりについての研修を深めることで、安定した学級づくりができた。学校が楽しいと答えた児童が96%、全校登校できた日も100日を超えた。 ○道徳教育の研修や人権学習の授業公開を実施し、児童の道徳的実践力の育成に努めた。 ○充実した異年齢活動ができ、児童が生き生きと活動する様子がみられ、児童同士、教員と児童、教員同士の温かい雰囲気は学校の中にみられる。しかし、自己肯定感の低い児童が多い。 ○教育相談活動充実により、不登校の未然防止はできた。
	(2) 自己肯定感を高める生徒指導の取組	(1) 健やかな心身を育み、たくましく生きる力の育成 (2) 危機管理の充実と安心・安全な学校作り、環境の整備	(1) たくましく生きる力の育成 ○目標を明確に継続的な体力づくりの取組の推進 ○小中連携加配との連携による運動能力の向上 ○生命や体、健康に関する知識と実践的態度の育成 (2) 安心・安全な学校づくり ○教職員の危機管理意識の向上を図る研修の充実 ○安全点検や避難訓練の実施と地域と連携した安全体制・防犯体制の確立	(1) 心・体・命の学習を全学年計画的に実施し、保護者に公開し理解を得ることができる。 ○担任の計画的な指導や小中連携加配の支援により、駅伝大会でよい結果を残すことができた。 ○朝マラソン・縄跳びを実施し体力向上に努めた。児童は意欲的に取り組むことができた。 ○避難訓練は計画通り実施することができた。 △通学路、安全・防犯体制の一層の充実は必要である。	
健康（体育）・安全	(1) 健やかな心身を育み、たくましく生きる力の育成	(1) 日々の丁寧な相談活動による児童一人一人に応じたアセスメント、個別の指導計画作成・活用の推進 (2) 子どもの教育的ニーズに応じた校内委員会を組織し、指導の充実を図る。	(1) 日々の丁寧な相談活動による児童一人一人に応じたアセスメント、個別の指導計画作成・活用の推進 (2) 子どもの教育的ニーズに応じた校内委員会を組織し、指導の充実を図る。	(1) 担任、特別支援コーディネーター、保護者が児童の状況を共有し指導の進め方にについて共通理解を図ることで、個別の指導計画に基づいた指導が進められた。 ○小中連携・保幼小の連携を図ることで10年間を見通しした個の特性に応じた支援について考えられた。 △保護者理解の進まない児童について、今後も丁寧に対応することことで、児童の状況に応じた指導を進めていきたい。	
	(2) 危機管理の充実と安心・安全な学校作り、環境の整備	(3) 幼小連携・小中連携の充実とユニバーサルデザインを意識して多様な学習形態を導入した授業づくりを進める。 (4) 支援を要する児童理解、指導・支援の在り方について研修会を実施し、特別支援教育を充実する。	(1) 研究課題を明確にし、協働して学ぶ意欲を高める。 (2) 研究体制を整え、学級づくり・授業研究会の充実を図る。 (3) 講師招聘等、研修を工夫し教職員の指導力向上を目指す。	(1) それぞれが、研究仮説に基づき課題を設定した授業研究を行いう等、意欲的に研究活動を進めることができた。 ○青山教授の指導を受けながら、ユニバーサルデザインに観点をおいた学級づくり、授業づくりを進められた。	
特別支援教育	(1) 児童の特性を踏まえて、合理的な配慮の観点に基づいた必要な指導・支援の推進	(1) 学力向上システム開発校として研究実践してきた中で明確になつた取組課題を全教員で共通確認し、学力向上の取組をシス	(1) 本年度、学力向上システム開発校として研究実践してきた中で明確になつた取組課題を全教員で共通確認し、学力向上の取組をシス		
	(2) 危機管理の充実と安心・安全な学校作り、環境の整備	(2) 小中連携や幼小連携、小中連携など峰山学園小中一貫教育を充実すること、授業実践力を付け児童の学力向上を図ることで、児童がスマーズに中学校に進学し充実した学校生活を送ることができるよう努力する。	(3) 講師招聘等、研修を工夫し教職員の指導力向上を目指す。		
次年度に向けた改善性					

平成29年度学校評価自評報告書

学校名〔京丹後市立大宮第一小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
1 意欲的に学び、チャレンジする子どもたちの育成 2 自他を大切にし、思いやりのある子どもの育成 3 心身を鍛え、活動的な子どもの育成 4 組織的・効率的・機能的な学校経営による信頼されるるる学校づくりの推進 5 大宮学園経営計画に基づく小中一貫教育の充実	○組織的授業研究による授業改善、全校体制による早期回復指導、家庭連携の充実により基礎学力が向上してきた。 ○学校運営システムの充実推進により、組織的に学校課題(問題行動事象・不登校)改善に向けた取組の充実が図られた。 △課題特性に応じ、個別化児童支援、子育て支援の強化を図る。 △大宮学園経営の充実を図るために、校内組織推進の強化を図る。	・全教活動で思考力・言語力(書く・読む・表現)の向上を図る。 ・各力学力診断テスト結果分析に基づき、学習意欲・基礎学力の向上をめざした授業改善を図る。 ・算数科を重点研究教科とし、指導法改善を進め、算数・科学力課題の改善を図る。 ・組織的指導体制を整え、全校放課後算数補習、朝ドリル、長期休業中補習の充実を図る。 ・形成詰塗、単元未評価等、計画的な効果測定により、個に応じた即時回復指導、早期回復指導の工夫・徹底を図る。 ・家庭との連携による「家庭学習のやくそく」の活用や、生活習慣確立の取組を通じて家庭学習習慣の定着を図る。 ・大宮学園合同研修により、自己肯定感を高め、基礎学力の向上を実現するための授業づくりを充実させる。 ・計画的に新学習指導要領実施に向けた研修	○「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成 ○課題解決力、表現力、人間関係を結ぶ力の育成 ○授業研究の充実、授業改善による基礎学力の向上 ○教科指導力・生徒指導力・対応力・連携力の向上 ○卒業証明書に対する、組織的支援力・対応力の向上 ○懇談、家庭・地域との連携強化による家庭教育支援の充実 ○大宮学園の組織運営・連携教育活動の充実
教育課程 学習指導	○自ら課題を見つけて、主張的に課題を解決する力、豊かな表現力を育成する。 ○児童の学力実態や学習状況を基本的事項に把握し、基礎的・基礎授業改善を図るべき授業改善を推進する。 ○算数科を重点教科とし、小中連携、小中連携により指導法の改善に取り組む。 ○小中一貫関係力リキュラムを生かした学習指導を推進する。 ○新学習指導要領実施に向けての研修・準備を進める。	・全教活動で思考力・言語力(書く・読む・表現)の向上を図る。 ・各力学力診断テスト結果分析に基づき、学習意欲・基礎学力の向上をめざした授業改善を図る。 ・算数科を重点研究教科とし、指導法改善を進め、算数・科学力課題の改善を図る。 ・組織的指導体制を整え、全校放課後算数補習、朝ドリル、長期休業中補習の充実を図る。 ・形成詰塗、単元未評価等、計画的な効果測定により、個に応じた即時回復指導、早期回復指導の工夫・徹底を図る。 ・家庭との連携による「家庭学習のやくそく」の活用や、生活習慣確立の取組を通じて家庭学習習慣の定着を図る。 ・大宮学園合同研修により、自己肯定感を高め、基礎学力の向上を実現するための授業づくりを充実させる。	○全教育活動で思考力・言語力の向上を図ることができた。 ○各基礎学力診断テスト結果分析、学期毎の基礎学力達成状況分析を踏まえ、授業改善、全校体制による早期の回復指導を取り組み、基礎学力の定着を図ることができた。 ○算数科重点研究により、算数科を中心とした授業改善の取組の充実を図ることができた。 ○指導法の工夫・改善により、個に応じたきめ細かい指導が充実でき、基礎学力の向上を図ることができた。 ○全学年放課後回復指導の充実を図ることができた。 ○年間を通して家庭学習の充実を図ることができた。 ○家庭学習慣習、家庭学習の充実を図ることができた。 ○英語科、道徳を中心とした新学習指導要領実施に向けた研修の充実を図ることができた。 △大宮学園授業研究により、「ことばの力」を高めるための授業づくりを充実させた。
生徒指導	○「いいじめ」「不登校」等の諸課題に対し、未然防止に向け日常生活を通じて人権教育を推進し、自分や友達を大切にできる児童の育成を図る。 ○日常的な生徒指導・教育相談活動を充実させるとともに、「心の教育」を推進する。 ○全教育活動を通して、人権尊重、規範意識・自尊感情の醸成、児童の個性・社会的資質・能力の伸長を図り、自ら課題を解決する意欲と実践力を育成する。	・生徒指導部・教育相談部・支援会議等のセンター機能が発揮され、問題行動事象、不登校、個別支援課題等の児童課題について組織的に改善を図ることができた。 ○道徳、人権学習の充実により、自他を尊重する児童の育成を図ることができた。 ○年間を通して多様な異年齢活動・体験活動を工夫し、豊かな人間関係の育成を図ることができた。 ○全教育活動を通じ自己決定場面を工夫・充実させ、「自ら考え、課題を解決していく力」の育成を図ることができた。 ○学級経営評議会に基にした実践研修により学級経営力を高め、豊かな人間関係の育成を図ることができた。 ○大宮学園引き継ぎシートの活用、学園教育支援部会、校内支援会議の充実により、個別な不登校解消に向けた取り組みの充実を図ることができた。 △支援会議・家庭教育支援を充実させ、不登校を解消させる。	

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

<p>健康（体育）・安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科体育、遊び、体力づくりを通して、楽しく体を動かす習慣を身に付けさせながら、体力・運動能力を向上させた。 ○安心・安全な生活が送れるよう、教職員の日常的な危機管理意識・対応力を高めるための危機対応力を育成する。 ○健康な心と体に成長するため、たくましく生きる実践力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科体育の充実、日常的な遊び、継続的な朝マラソン・朝練競いの取組を充実させ、基礎体力の向上を図る。 ・年間を通して、計画的に食育・保健指導の充実を図る。 ・安心・安全な生活が送れるよう、教職員の日常的な危機管理意識・対応力を高めるための危機対応力を育成する。 ・校内事故防止指導、登下校安全指導・体制の充実を図る。 ・生活点検の取組を充実させ、基本的生活習慣の改善を図る。 ・より良く生きるために体・心・命の教育の充実を図る。 ・登下校の安全を守るために地域・PTA連携の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して教科体育、体力づくり、外遊びを充実させることができる、基礎体力の向上を図ることができた。 ○きめ細かな日々・月ごとに、特設の食育・保健指導の成果により、保健意識の高揚を図ることができる。 ○危機管理意識・対応力を高めるための連携・訓練、施設管理を行い、組織的に危機管理能力の向上を図ことができた。 ○校内安全指導、保護者・地域連携により事故防止、登下校・地域での事故防止の徹底を図ることができた。 △生活点検の取組を活用し、基本的生活習慣の改善を図る。 △校内生活安全に関する環境整備・施設整備に取り組む。 	
<p>特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○人間尊重の精神を基盤にした「共に生きる心豊かな児童」を育成する。 ○心身の障害特性に基づく、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネータの機能を充実させ、職員研修・特別支援教育実践力の向上を図る。 ・定例支援会議による児童実態の把握・指導・指導方法の策定により、全校体制についての理論的研究を充実させ、その成果を学級経営・学習指導場面で具現化させる。 ・保護者・関係機関との丁寧な連携、個別の指導計画に基づき、個別な配慮が必要な児童への組織的支援の充実を図る。 ・年間を通して、児童の状況に応じた適切・適確な個別指導の充実を図る。 ・障害を正しく理解するため、理解教育の充実を図る。 ・大宮学園引き継ぎシートの活用や大宮学園合同研修により、保幼小中の特別支援教育の一貫と接続の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発達障害理解・特別支援教育体制の充実に関する研修を行い、個に応じた支援を充実させることができた。 ○定例支援会議により丁寧な児童実態把握を行い、関係機関、保護者との連携により、共通理解を深めながら、組織的に個に応じた個別な支援・対応を図ることができた。 ○様々な個別な事情による突発的不適応状況に対し、状況に応じた組織的支援力・対応力を高めることができた。 ○年間を通して丁寧な就学相談の成果により、障害の状況に応じた就学指導の充実を図ることができた。 ○大宮学園引き継ぎシート・特別支援学級担任会による実践研修により、大宮学園特別支援教育の充実を図ることができる。 △さらに、保護者・関係機関との連携を充実させ、個別の指導計画に基づく個に応じた支援の充実に努める。
<p>開かれた学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学校・家庭・地域社会の教育環境を整え、子ども達が大切に包み込まれ、育まれていることなどを実感することができる開かれた学校園教育支援協議会の活動の充実により、小中一貫教育の教育環境づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・迅速、的確、誠実で丁寧な家庭との連携・支援の充実を行い、子育て課題 ・兎服に向けた家庭連携・支援の充実を図る。 ・子育て課題を共有し、子ども達に生きる力を育んでいくために、多教の保護者の参加による懇談会の充実を図る。 ・地域の教育素材・人材を活用した教育活動の充実を図る。 ・地域・保護者との連携の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○組織的な協議に基づく、迅速で丁寧な家庭との連携を行い、児童の個々課題に対する改善に向けた連携を充実させることができた。 ○地域の教育素材・人材を活用した教育活動の充実を図ることで、子育て課題を共有し、子ども達に生きる力を育んでいた全員参加による学級・学年懇談会の開催を目指す。 △大宮学園教育支援協議会との連携により、地域との教育環境づくりの充実を目指す。
<p>次年度に向けた改善性</p>	<p>【組織的推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①経営的会議としての学年主任会、教育課程推進会議としての企画委員会について、機能の強化、推進の効率化を図る。 ①大宮学園目標である「こどばの力」「思いやる力」「つながる力」を育むための教育活動の充実を図る。 ②人権意識・規範意識の高揚を図り、自ら考え判断して生活上の諸問題を解決する力と、人間関係を結ぶ力を育むための学級経営・学校運営の充実を図る。 ③課題解決力、表現力、人間関係を育む力と、組織的不適応状況に対する、組織的支援力・対応力を高める。 ④理論的研修・実践的研修の充実を図る。(算数科授業改善、生徒指導力・対応力の向上、新学習指導要領に係る研修の充実) <p>【連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大宮学園3会議・3部会と、校内外と地域との連携の強化を図る。学園教育活動、研修活動の効率化を図る。 ②学級懇談会、家庭・地域との連携を充実させ、家庭の教育力の向上、学校教育の充実に向けた地域の教育力の活用を図る。 ③本校PTAと大宮学園PTA、大宮学園教育支援協議会との効果的な連携の仕組みを整える。 		

平成29年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立大宮南小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
大宮学園 教育目標 「自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成」		○人権教育を基盤とし、互いの違いや良さを認め合える学級、仲間はずれやいじめのない学級、学校づくりを進めることができた。 △不登校傾向児童、発達障害等、様々な個別課題に対応する指導力、対応力が課題である。	<大宮学園 目指す子ども像> (1)意欲的に学び、チャレンジする子どもたちの育成 (2)自他を大切にし、思いやりのある子どもたちの育成 (3)心身を鍛え、活動的な子どもたちの育成
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	(1) 中学校との接続を意識した連続性のある指導の充実 (2) 基礎・基本の定着と活用する力の育成 (3) 家庭との連携による家庭学習の質・量の向上	(1) I期、II期、III期の学習への円滑な接続 ・小一スタートカリキュラム（短期から長期へ）の実施 ・小四振り返りスタディの充実 ・モデルカリキュラムの活用 ・「ことばの力」カリキュラムの検証 (2) 児童が「わかる」「できる」指導の工夫・改善 ・「小学校で身に付けた力」の具体的な取組実践 ・個人に応じたきめ細かな指導（TT、少人数指導等） ・目標と指導の一体化を重視した授業改善 (3) 大宮学園「家庭学習の手引き」を活用した家庭と連携した家庭学習習慣の強化 ・家庭学習がんばり週間の実施 ・発達段階に応じた自主学習指導　・読書活動の深化	○保幼小接続プランを実態に合わせて年長・入学・1年生の長期プランとして作成、実践を進めることができた。 ○4年生で習熟度別ふりかえりスタディを実施し、学力の定着を図ることができた。 ○△小連携加配教員と担任による TT 指導・少人数指導で算数科指導の充実が図れた。 ○△学校体制で学力充実の取組を推進し、成果が見られるが、高学年になるにつれ学力差が見られ、一層個々に応じた指導が必要である。 ○読書活動の推進を進めたことで、読書する児童が増えた。 △学年に応じた自主学習指導はやや不十分であり、次年度の取組課題したい。
生徒指導	(1)正しく判断し、行動できる力、規範意識の醸成 (2)人権意識の育成といじめの未然防止 (3)特別活動の充実による自主的・実践的な態度の育成	(1) 小中で共通の視点を盛り込んだ「学校のきまり」「5・6年生の心得」指導 ・学校体制による組織的な生徒指導 ・情報機器使用のルール、マナーの指導 ・非行防止教室（3年生以上） (2)自他を大切にする心を育成するための人権の取組 ・改訂「人権教育カリキュラム」の検証 ・いいじめ対策委員会によるいじめ防止、未然防止の取組 (3)児童実態に応じた月目標の設定と PDCA サイクルの取組実践で児童の自治能力と自己肯定感を高める。	△情報機器使用のルール、マナーの指導は、年間見通して計画的に行う必要がある。 ○人権旬間（6月）人権月間（12月）と取り組み、年間を通して指導をしているので人権意識は高い。 ○月目標に向けた学年取組、振り返りを継続して行うことで、児童の規範意識や自治能力は高まっている。

健康（体育）・安全	(1)体力・運動能力の向上 (2)健康安全教育の充実 (3)食育・給食指導の充実	(1)体力テストの結果を踏まえた授業改善 (2)自他の命を大切にし、ルールを守り、自分の身を守る (3)平成30年度市学校給食研究大会研究協力校として、これまでの取組成果を整理し、課題改善に向けた取組の推進（栄養教諭との連携、環境整備、学活指導等）	○マラソンやなわとびの年間取組で児童の基礎体力が向上した。 ○交通教室や日常的な登校指導、安全教育で児童の安全に関する意識の高まりが見られる。 △栄養教諭と連携し、給食指導・食育指導の改善を進めたが、一層計画的な指導を進めていく必要がある。
研修（資質向上の取組）	(1)児童の思考力・表現力・活用力を高める校内研修の実施 (2)次期学習指導要領の理論研修と準備に向けた校内研修の実施	(1)指導と評価の一体化を目指した授業改善を重点研究国語科を中心に行う。 (2)道徳の教科化、外国语活動の先行実施に向けた校内研修を実施し、指導力の向上を図る。	○全学年国語科の研究授業を行い、思考力・表現力を高める授業づくりを進め、成果が見られた。 ○外国语活動研修を計画的に実施し、外国语実施に向けた準備が進むとともにE-ROOM等環境整備ができた。 ○道徳教科化に向け、大宮学園で共通重点項目の決定（思いやり）や全体計画の作成等、準備が進んでいる。 △外国语・道徳科の指導力向上は課題である。
特別支援教育	(1)ユニバーサルデザインの視点で学校教育の改善を図る。 (3)障害のある児童・保護者のニーズに応じ、個性・能力の伸長ができる特別支援教育を進める。	(1)通常学級における特別支援を要する児童に対しての適切な支援を進める。教育のユニバーサルデザイン化を意識した教室経営、教科指導を進める。 (2)適切な児童の見立てや個別の指導計画が作成できるよう学校体制で取組を進めることも、外部連携した事例研究や研修を行う。	○外部連携を積極的に行って、支援のあり方を組織的に検討し、特別支援に対する理解が進んだ。 ○巡回通級指導教室との連携で配慮児童への指導支援が進んだ。 △児童・保護者のニーズに応じ、個性・能力の伸長ができる特別支援教育の推進には、課題がある。
次年度に向けた改善の方向性	(1)引き続き人権教育を基盤にし、互いの違いや良さを認め合える学級・仲間はずれやいじめのない学級・学校づくりを推進する。 (2)小中一貫教育の視点を大切に児童の思考力・表現力・活用力を高める授業づくり・授業改善を進める。 (3)新学習指導要領実施に向けた研修・指導力向上のための取組を進める。（新指の趣旨に沿った実践、道徳科・外国语科、本格実施に向けた準備）		

平成29年度学校評価自評報告

学校名〔京丹後市立網野北小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)	
教育課程 学習指導	1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とともに生きる、豊かなる心を育てる。	○ 全校的に年間通して、落ち着いた授業ができ、授業充実を図ることができた。 ○ 社会科・国語科の授業研究を通して、自分の考えを表現することができることができる。 △ 活用する力を身に付けさせ、A層をつくる取組、「わかる授業」「できる授業」を通じて国算の基礎・基本の力を身に付ける取組を進める必要がある。		「自分なりの考え方を持つことができる児童の育成」 1 自分の考え方を表現することができます。 2 自分や友だちのよいところを見つけることができる。 3 いろんなことに挑戦することができる。	
本市の小中一貫教育					
生徒指導					

健康（体育）・安全	1 全校的な体力にかかる取組の充実により、体力向上を図ったり、基本的な生活習慣を身に付けさせて、学校を作ること。	1 期間を決め、体力づくりの取組を行い、体育の授業と運動することで、体力（特に持久力）向上を図ったり、PTAと連携して基本的な生活習慣の確立を目指したりして、休まざ学校に登校できる意欲を高める。	○体力・運動能力向上指定校として、全校で「まゆまる体操」に取り組み、体力・運動能力向上（立ち幅跳び等）を図ることができるだけではなく、その成果を地区運動会で発表し、広報することができた。 ○体力づくりに取り組み、駅伝大会では、優勝の結果を得ることができた。
	2 運動能力向上指定校として（府教育委員会指定）体力向上の取組を進める。	3 学校、学級での取組において個々の目標を発達段階に応じて明確にし、特に「自分自身に関すること」1-(2)についての指導を重視し、粘り強く挑戦する態度を高める。	△児童アンケートで「『はやね』をしていますか」の問い合わせに77%がしていると回答している。昨年度より数値が下がってきている。 今後もPTAと連携し、生活習慣が身に付いていない児童に対して取組を進めていきたい。
特別支援教育	1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。	1 教育相談部会を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援・手立てを明確にしながら、担任と連携した指導を進める。 2 保護者との懇談を実施し、個々への合理的な配慮を明確にするとともに個別の指導計画・個別の教育支援計画を日々活用し、指導方法の工夫改善を図る。	○特別支援校内委員会を定期的に開催し、一人一人のニーズに応じた指導方法を検討し、ティサービス訪問等あすなろ・つばめ学級合同の取組も行うことができた。 ○年間を通して保護者と懇談することができ、保護者の願いを取り入れた個別の指導計画・教育支援計画を作成し、見直すことができた。
	1 丁寧で分かりやすい双方の情報発信と積極的な学校公開を進めること。	1 学校だよりや学級・学年通信、ホームページ等で、学校の様子を分かりやすく発信したり、保護者の意見も載せたりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。 2 PTA・地域の関係機関等との取組により連携を強化する。	○6月に学校公開日を設定し、保護者・地域住民に研究内容等発表し、広報することができた。授業参観・学校行事のアンケート結果のまとめを発行し、学校の方針の理解・保護者との連携が一層進んだ。 ○稲作・そろばん・ミシン・読み聞かせ・コンピュータ・百人一首・英語活動・スキー等の学習支援ボランティア、ゲストティーチャーを促進する。 3 PTAとの積極的な連携を進めることとともに、地域と一緒にとなつた取組を計画的に実施する。
次年度に向けた改善的方向性	網野学園の教育目標・目指す子ども像を基に学校経営を行ってきた。短期の達成目標「自分なりの考え方を持つことができる児童の育成」と「12の具体的方策」で、更に成果の見える取組を行う。	1児童に自分なりの考え方を持つ表現できる力を身に付けさせるとともに、教科の基礎・基本を身に付けさせ、見える学力の充実を図る。 2主体的・対話的な授業研究に取り組み、学力の安定・充実を図る。 3指導と評価の一体化を図る取組を行い、学力の向上を図る。 4家庭と連携し、生活習慣を確立させ、家庭での学習の充実を図る。	

平成29年度学校評価自己評価報告書

学校名 [京丹後市立網野南小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
網野学園小中一貫教育の目標から「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成」を目指す子ども像		<ul style="list-style-type: none"> ○「ルールの内在化」「豊かな人間関係づくり」等を積み上げることで、満足群が10ポイント増加した。 ○いじめ事象等の課題に対して、組織的に対応できた。 △学力充実の取組を進める際、全校が一齊に、明確な目標を持ち取り組めるよう工夫改善をする。 △全児童欠席0の日数（全児童出席日数）を増やす。 △保護者、地域との連携を一層推進する： 	<p>1 学校再配置4年目。児童が安心して学校生活を送り、各の力を最大限発揮できる教育環境をつくる。</p> <p>2 網野学園小中一貫教育の「目指す子ども像」の具体化を図るため、他の小中学校と一体化した教育推進</p> <p>3 「いごこちのよい」「毎日登校できる」「よく学ぶ」「信頼」をキーワードとした学校経営 網野南7030プロジェクト</p>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自 己 評 価)
教育課程 学習指導	基礎的・基本的な学習内容の習熟と、思考力・判断力・表現力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・網野学園「これだけは授業編」(めあての提示、思考の場、学び合いの場の設定)を組織的、継続的に進める。 ・読み、書き、計算など習熟の徹底（基礎学力の充実） ・学習習慣の定着、家庭学習の内容の充実に努める。 ・主体的、対話的な学習の研究、実践を進める。 ・どの子も学びやすい授業（個に応じた指導） ・網野学園学力向上システムを計画的に回し、目に見えるる学力向上を目指す。（年度初めの診断テスト等の結果より年度末に実施するDRTテストでは、平均比においてすべての項目で向上を目指す。） 	<ul style="list-style-type: none"> ○「これだけは授業編」を授業研究の中心にし、計画的に授業研究を積み上げ、学び合うことができた。他の教師のよさを自己の実践に取り入れ授業力を高め合うことができた。 ○少人数加配を中心に、計画的に放課後補習やふりかえり学習をしたり、学期末計算チャレンジテストにむけて連絡のプリントを家庭学習で反復させたりするなどし、学力向上に繋げた。 ○年度末のDRTの結果は、平均比において10項目中すべてにおいて年度初めの結果を上回った。 △主体的、対話的な学習の一層の推進
生徒指導	いごこちのよい学校、満足群70%以上を目指す。「みんななかよく支え合う子」「いごこちがよい学校」いじめ防止と解消に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・「いごこちのよい学級にするためのアンケート」を年3回（4月、7月、12月）実施し、教育活動を進める際の重要な資料とし、学級経営、学校経営に活かす。 ・網野学園「これだけは」（授業規律確立と規範意識醸成）等でルールの大切さを価値づけたり、共有化したりする。 ・生徒指導の3機能を大切にした教育実践を推進する。 自己決定　自己存在感　共感的人間関係 ・相手を傷つける言動を許さない気運の徹底を図る。 ・いじめや問題事象等侵害行為への対応は、迅速に、丁寧に、組織的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケート結果、児童の観察等を参考に、年間を通して生徒指導の3機能を大切にした指導を継続することで、学級生活満足群を74%から1ポイント増、不満足群を8%から3ポイント減じる等、いごこちのよい学校づくりを推進することができた。 ○網野学園「これだけは」を全教職員が共有化することで、同一方向の指導をし、安定した環境を作り出した。 ○企画委員会で設定した目標を各分掌の動きと関係づけ、児童の指導へと繋げることができた。 ○問題事象に対して、迅速に組織的に対応した。

健康（体育）・安全指す。 ※ h27 年度：16 日 h28 年度：26 日	<ul style="list-style-type: none"> 全員出席日 30 日以上を目指す。 登校が楽しみな学級経営、学校経営をする。 登校が楽しめる授業づくりや特別活動を実施する。 家庭との連携による生活リズムの確立を目指す。 網野学園「これだけは！家庭編」の PTAとの連携による推進を図る。 給食時間におけるランチルームでの全校一斉の食育指導を大切にし、計画的・継続的に積み上げる。 配慮を要する児童について共通理解し、保護者面談等計画的・継続的に実施したり、個々の児童のニーズに応じた指導を進めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「全員出席日 30 日以上」の目標を PTAと共に設定し、網野学園「これだけは！」（家庭編）を意識し基本的生活習慣の確立を図ったり、配慮児童の家庭と定期的に面談を持つたりするなど丁寧な指導を継続したことにより、全員出席日を 35 日とすることことができた。（3/5 現在） ○給食の時間を、毎日全校が場を同じにする大切な場と位置づけ、全教職員で指導に当たった。その結果、配膳など当番活動をより円滑に進行したり、遅食児童が減少したりした。
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> シンプライアンス意識の高揚を図り、保護者、地域の信頼と期待にこたえる。 「いじめ」等問題事象の早期発見・早期解消に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○シンプライアンスハンドブック等を活用して校内研修・校長通信等によりシンプライアンスに係る継続的な情報発信をする。 ・児童、教職員の人権を大切にした学校経営をし、日頃から教職員間で何でも話せる関係づくりに努める。 ・PTA役員等密接な連携を図りながら、課題解決に臨む。 ・超過勤務縮減、効果のある学校の視点からも、年間を通して校務改善を進める。 ・超過勤務時間実態共有化と年間を通して縮減の働きかけをする。 ・見守り隊組織を整理し、組織としての機能化を図る。
特色ある学校づくり	<p>開校 4 年目。保護者、地域、関係機関との連携を大切に学校経営をする。また校区の人・自然・文化について学び、まとめ、情報発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学校便りを各区長さんの協力を得ながら、各戸に回覧することででききた。地域の学校に対する関心を高めることに繋がった。 ○ホームページをほぼ毎日更新することで、児童のがんばりを地域に発信することができた。 ○年間約 43 万件・毎日約千件のアクセス ○広くなった校区で、各地区の特徴を活用した地域学習を開き、郷土を知り、郷土に対する関心を高めた。
次年度に向けた改善性	<p>家庭環境の厳しい児童、学級生活不満足な児童、低学力児童への一層の具体的な指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇全児童出席日数を増やす。※早寝、早起き等基本的生活リズムの確立 ◇授業と家庭学習の関連を強める等工夫することで、家庭学習の充実を図る。 ◇「主体的・対話的で深い学び」を具現化する授業づくり ◇働き方改革に係る学校運営の改善

平成29年度学校評価自己評価報告書

学校名〔京丹後市立島津小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 図工科の授業研究を通して、網野学園の指導事項をふまえた研究を深めることができた。 ○ 年間を通して児童も教職員も共に「合言葉」をもとにした全校体制の取組ができてきた。 ○ アメリカのマンチエスター・モリアル小との国際交流を行うことができた。 △ 関係機関とも連携した教育相談活動を行なうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 全ての教育活動において、合言葉(短期目標)を位置付け、「島小システム」による学校運営を進める。 2 網野学園の教育目標、経営方針を基に、小中一貫教育の利点を生かした授業力の向上を図る。 3 いじめ・不登校等、生徒指導・教育相談の組織的な対応力・指導力を高める。 4 國際交流を通して国際理解教育実践を進展させる。 5 勤務時間縮減に努める。
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自 己 評 価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・網野学園の共通指導事項を踏まえた指導を通して、授業改善・学力充実の取組を進めます。 ・網野学園の取組と連携し、学力向上プログラムを基にした取組を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・網野学園の提案をもとに「これだけは！」を、全校でやりきつていく。 ・「これだけは！」を日常的に実践し、三者会及び企画委員会による評価を返し改善を目指す。 ・朝読書、チャレンジタイムへの評価・改善により、ねらいを明確にした時間として充実させる。 ・網野学園と連動して、家庭学習がんばり週間を実施し、効果を高める。(PTAとの連携事業) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2ヶ月サイクルで示した「合意言葉」は、児童に目指す方向性がわかりやすく、取組の活性化につながった。 ○ 網野学園「これだけは！」をもとに学習意欲を高めた。アンケートでは、92.1%の児童が「学習に意欲的に取り組めた」と肯定的に回答した。 ○ 家庭学習がんばり週間は、取組として定着し、学年にはあつた学習時間の意識は94%と高かった。 △ 家庭学習がんばり週間をさらに、PTAと連携した家庭学習の取組に広げることができなかつた。
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・網野学園「これだけは！」の規範意識の醸成を、日常の中で実践する。 ・「島小システム」を機能させ、目標に向け意欲的に活動する児童を育成する。 ・心の教育を充実し、自己肯定感を高める取組を進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の活動に規律を意識させるとともに、互いに認め合う場面を作り評価していく。 ・学期毎に内部評価アンケートを実施し、指導の検証をして改善に活かす。 ・全ての計画に、短期目標「合言葉」を実践する内容を取り入れる。 ・生徒指導部を中心とする、問題事象の早期発見・早期解決を組織的に行なう仕組みを定着させる。 ・児童会活動を通して異年齢活動やチームの活動を活発にする。

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・網野学園家庭編に基づき、PTAに働きかけ、家庭と連携した取組を進める。 ・健康的な保育と体力の向上を図る。 ・安全への実践的態度の育成を図る。 ・教育の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・網野学園「これだけは家庭編」に基づき、PTAの体力づくりは見通しをもたらせ計画的にを行うことで、児童が個々の目標に向かって意欲的に取り組んだ。高学年の全力で取り組む姿が、低学年へのゴールイメージとなり、一人一人が力を伸ばしました。 ・朝の体力づくりの更なる充実を目指し、意欲を高める取組を進める。 ・日々の生活・活動を通して「安全」を考えさせ、実践させる場面を作る。 ・実際に合わせた指導を工夫し、食に関する学習意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の体力づくりは見通しをもたらせ計画的にを行うことで、児童が△校内の安全な生活は指導を続けているが、廊下歩行など徹底できない課題が残っている。 △「これだけは（家庭編）」をPTA活動の中で共有する時間設定がとれなかった。
特色ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・外国语活動指導力の向上を図る。 ・豊かな体験を基にした国際理解教育実践を推進する。 ・「琴引き浜」をテーマとして、積極的に地域に学習の成果を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「外国语活動」の授業を通して、コミュニケーション力を高める。また、その力を他教科に生かし、自分の考えを活発に出し合える授業づくりを目指す。 ・マンチエスター・メモリアル小学校との交流を年間計画に位置付けて、異文化体験を計画的に豊かにする。 ・「琴引き浜」学習を通して、地域の方々に「教えていただぐ!」「発信する」機会を積極的に設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○イングレウッド小学校とライブ交流が実現し、学んだ英語を実際に生かせる体験ができたことで、児童の「外国语活動」の授業への意欲がさらにも高まった。 ○教員が英語を学ぶ研修の機会を校内で設定し、担任がClassroom Englishを使って授業をした。教員が英語を話すモデルとなり、相槌や相槌的にコミュニケーションを図ることの大切さに気付いた。他教科の授業にも効果が広がりつつある。 ○海岸清掃や白砂青松を守る取組への参加を通して、児童は「琴引き浜」や地域の自然に対して高い関心を持つことができた。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害傾向の児童に対して、組織的な取組を進めるとともに、児童理解の力量を高める。 ・就学指導の充実を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に配慮の必要な児童に対して、ケース会議を設置し組織的な対応をする。 ・配慮の必要な児童・保護者と学校が丁寧な懇談をし、指導の充実を目指す。 ・適切な就学指導を進め、該当保護者の理解を得られる取組を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育支援委員会を中心とし、外部の医療機関やSC・SSWと連携した継続的な取組を丁寧に進めた。児童・保護者への支援、担任への助言等により、児童の困り感に対応した支援につなげることができた。 ○配慮の必要な児童の保護者との面談を複数体制で実施することができた。次年度さらに取組を継続し、より多くの児童への適切な指導・支援が実施できるようにする。 △必要な個別の支援計画・個別の指導計画を作成したが、それを活用した効果的な指導・支援には至らなかつた。
次年度に向けた改善の方向性			<p>①府小研「外国语活動」研究指定をして、全ての教職員が協働的に参画できる研究推進体制を確立する。</p> <p>②外国语活動で児童に付けてい力を国語科の「話す・聞く」とリンクさせながら言語の力として教職員が共有し、日常の授業実践を積み上げていく。</p> <p>③網野中学校との連携をもとにした研究の視点もさらに充実させ、網野学園として取組を進める。10年間を見通した保幼小中との連携を図りながら、自校だけではできない学習や活動を積極的に仕組んでいく。</p> <p>④教育的ニーズに応じた支援を、外部の専門機関との連携も図りながら、多面的な就学指導を組織的・計画的な進行管理のもとを行う。</p>

平成29年度学校評価自己評価報告

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自 己 評 価)
【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」	○ 網野学園小中一貫教育：「これだけは！」で付ければいい力を意識し、授業づくり、生活習慣の確立、家庭への働き進むことなどができた。 △ 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子 【知】意欲的に学習に取り組む子どもも み：みんなかよく支え合う子 【徳】規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども の【体】粘り強く生き生きとやる子などを △ 「毎日元気に登校したくなる」	○ 網野学園小中一貫教育：「これだけは！」で付ければいい力を意識し、授業づくり、生活習慣の確立、家庭への働き進むことなどができた。 ○ 学習指導では、研究推進部、学力充実部の方針に沿つて全学年ともに授業での言語力育成、ドリル時間等を用いた計算力、語彙力、漢字力等の定着を図ることができた。 ○ 特別活動部、生徒指導部、特別支援教育部等が、児童会活動の充実、月目標の向上が図れた。 △ 日常的に隣接学年で教材研究等を行い授業力向上に努める。 △ 要頼児童等への対応について共通理解を図る。	○ 子どもたちの「元気と笑顔があふれ、様々なことに挑戦する」姿を目指して楽しい学校にしよう！「毎日元気に登校したくなる学校」 △ 智恵をみがこう！ △ 一人一人の個性・よさ・可能性を伸ばすことで意欲的に学び、将来に夢と希望のもてる児童を取り組む力を養う。 △ 自分の考え方をもち主張的に物事に取り組む力を養う。 △ 場を大人間関係を築き、学び合い、学び合いで、支え合う。 △ 何事も最後まであきらめずにやりぬこう！ △ 何事も最後までやり通す粘り強い心を育てる。
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	評価項目	重 点 目 標	成 果 と 課 題 (自 己 評 価)
教育課程 学習指導	1 一人一人の個性・よさ・可能性を伸ばすことで意欲的に学び、将来に夢と希望のもてる児童を育てる。 2 自分の考え方をもち、主張的に物事に取り組む力を養う。 △ 学級づくりと授業づくりの運動 △ 言語活動の充実 △ 主体的・対話的な深い学び △ 指導と評価の一体化	・学級づくりと授業づくりを運動させ、安定した学級経営のもと、基礎基本の内容を確実に身に付けさせる。 ・網野学園の授業公開を含め各担任が年1回以上の「研究授業」を行うこと、また「実践開発プロジェクト」の研究を広げることを通して、指導力を向上し、児童に「わかる喜び」「学ぶ喜び」「学ぶ楽しさ」を体感させ、児童の学習意欲を高める。 ・各教科・領域等に言語活動を適切に位置付け、思考力・判断力・表現力を育む。 ・「TANGO 魅力伝え隊」の取組を各学年で進め、総合的な学習の時間・生活科等を軸に課題解決学習、探究活動を大切にした児童の主体性が高まる学習を行う。 ・網野学園構想に基づき、入学前からの10年間を見通して系統的な指導を行ない学力の伸長を図る。 ・目標を明確にするとともに振り返りを大切にし、きめ細かに指導することと評価の一体化を図る。 ・全校的な取組を実施し、その学年で付けなくてはならない学力をしっかりと身に付ける。(学力充実期間・家庭学習がんばり週間・校内漢字検定への挑戦・体力向上など)	○ 各学級の児童実態を踏まえて、学級経営案を学期ごとに交流・検証し、安定した学級経営を行い、年間を通して児童が落ち着いて授業に臨むことができた。 ○ △ 網野学園（6年）に加え市小研（3・5年）も授業公開を計3名の教員が行い、校内でも1・2・4年、なし学級が授業研究に取り組み「わかる喜び」「学ぶ楽しさ」を味わわせることで主体的に学ぶ児童が増えた。 ○ △ 各授業づくりを通して指導方法を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」をテーマに、研究推進部が牽引し指導力を磨き授業改善に取り組む。 ○ △ 「TANGO の魅力伝え隊」の取組を各学年で進め、総合的な学習の時間・生活科等を軸に課題解決学習、探究活動を行い、金学年が学んだことをリーフレットで発信することができた。取組内容について精査する必要がある。 ○ △ 家庭学習がんばり週間の取組では、家庭の支援も得られ、家庭学習忘れが減少した。全校でやりきる取組をさらに充実させたい。
生徒指導	1 豊かな人間関係を築き、学び合い、支え合う。	・授業の中で、ペア学習、グループ学習を取り入れ、学び合いのものなどにコミュニケーション能力を育む。(授業に生徒指導の3機能)	○ △ ペア学習、グループ学習を取り入れ、コミュニケーション能力を育むことを大切にした。各教科、領域等自分の考え方をもち、伝える力を付けたい。

	<p>◇道徳教育、人権学習の充実</p> <p>◇学級活動、異年齢活動、児童会活動の充実</p> <p>◇教育相談部会、生徒指導部会の機能化</p> <p>◇法やルールに関する教育（話し合い活動）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育、人権学習を実態に応じて計画的に行い、規範意識の醸成、差別、いじめを許さない研ぎ澄まされた人権感覚と人権認識を培う。 ・学級活動、異年齢活動を通して、自分を律し他と調和できる力や体や命を大切にする心情を培う。また、児童会行事やハピネスカードの取組などを通して、思いやる心、支え合い、認め合う心を育成する。 ・定例の教育相談・生徒指導部会の機能化を図り、カードA～Eの作成・活用を行い、支援が必要な児童について的確に把握し、全校体制で指導に取り組む。（長期欠席者0） 	<ul style="list-style-type: none"> ○△日々の指導及び人権専門の取組を通じて、人権感覚の高揚を図ることができた。「考える、議論する」道徳の時間となることを踏まえ、「考える、実施する」道徳の時間を全担任が指導できるように研修を実施する。 ○学級活動、異年齢活動を通して、思いやる心、認め合う心を育成することができた。 ○教育相談・生徒指導部会の定例化を行い、実態把握、二ースに応じた支援等について組織的に対応できた。
	健康（体育）・安全	<p>1 何事も最後まであきらめずにより通す粘り強い心を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月目標の取組を進め、自己の目標、学級目標の具現化に向けてこつこつと努力する姿勢を大目にする。 ・強い心、体力づくりの取組として、朝マラソンや朝縄跳びの充実を図り、体を動かすことが好きになる児童を育成するとともに、基礎体力の向上を図る。（全校児童が登校でききた日100日） ・よい生活習慣の確立を目指した取組（生活点検活動）を進めるとともに、家庭と連携し「早寝・早起き・朝ごはん」等の基本的生活習慣の確立を目指す。 ・危険予知能力を育成し、校内外の事故防止の指導を充実する。（安全指導、防災・避難訓練等）
	研修（資質向上の取組）	<p>1 学校課題を踏まえた研修テーマを意識した研修を行うことで、課題克服を目指す。</p> <p>2 個々の教職員が自己課題を踏まえた研修テーマを設定し、日々学び合い、指導力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進部が重点研究に基づいた重点研究を推進し、国語科「物語文」の読み取りを通して「表現力」を高める指導方法について研究する。 ・教職員の得意分野の研修が深まる機会を大切にすることも、校内研修で外部の研修で学んだことを全体に広め、移國、府、市の教育改革及び次期学習指導要領の準備・移行について学び合う。
	特別支援教育	<p>1 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教育環境の充実に努める。</p> <p>2 個々のニーズに応じた適切な支援を組織的に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教育活動の中で、ユニバーサルデザインの視点を大切にすることも、教育環境を充実し、誰もが「わかる」「できる」指導・支援ができるようになる。 ・カードA～Eの活用を図り、教職員が配慮の必要な児童について共通理解をした上で、教育相談・生徒指導・特別支援教育各部が連携し個別の支援を組織的に進める。また、SC、SSWの活用、関係諸機関との連携も進める。
次年度に向けた改善の方向性	「学力の充実・向上」が最重要課題、その具現化のための「特別支援教育の充実」（ユニバーサルデザイン授業、合理的配慮）をチーム橋小で推進する。また、SC、SSW、学校支援ボランティア等の外部人材を活用し、専門性から学びひびくこととする。		

平成29年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立豊栄小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
丹後学園教育目標「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて生きる子どももの育成」を目指し、目標達成のための具体的な取組を通して（具現化を目指し）学校づくりを進めます。		<ul style="list-style-type: none"> ○丹後学園の研究主題「主体的な学び」を通して、「算数」の授業づくり・研究を進め、児童の基礎学力の向上と言語活動の充実の向上に努める。 ○丹後学園としての取組を通して更に開かれた学校づくりを目指す。 <ul style="list-style-type: none"> △「学校の施設・設備、教育環境」の改善に努める。「信頼される学校」を目指し保護者・地域に協力を求める。 ・平成31年度の再配置に向け、間人小学校と一緒に教育計画案づくりや交流等できることを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> めざす児童像の具現化に向け、全職員が参画した組織的な教育活動を日々推進していく。(チームとして) ・丹後学園の取組と関連付けた研究を積み上げ、授業実践力の向上と改善に努める。(気軽な授業公開して高まりあえる教師集団) <ul style="list-style-type: none"> ・児童同士が喜びを共感し合う学級づくりを進める。 ・行事や取組を通じ児童が自分や友達を大切にする(できる)豊かな人間関係や社会性の育成に心がける。 ・児童の様子や気付き等、何事に対しても報告・連絡・相談・確認ができる教職員集団を目指す。
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程指導 本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しい学習体験を味わわせる。(学力・授業力の向上) ・言語活動を重視した授業改善と学習内容の定着を目指し活用する力を伸ばす。(丹後学園研修会・実践交流、小小連携研修会・実践会等) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で学校課題の整理を行い、指導の共通化を図る。先を見通した学習計画の下、意欲を引き出す指導・学力向上に繋がる指導を行う。(授業研究・公開授業) ・各学年が学習課題の考察をもとに回復指導を行う。丹後学園の取組と連携付け、家庭学習の環境づくりとして保護者にも協力を求めめる。(学習の手引き配布、丹後学園としての家庭学習頑張り週間) ・丹後学園の取組と連携した言語活動の取組を授業だけでなく、特別活動等でも推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表ボードや電子黒板等IC機器を活用したことで、楽しく学習に向うことができた。 ○丹後学園と本校の研修をつなぐことができた。「家庭学習がんばり週間」を行うことで家庭学習への意欲付いた。 △「長文を読む・考えをまとめて書く、人の話を聞く」力をさらに伸ばす。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○認め合いや児童の自尊感情を重視した生徒指導を進めます。 ○丹後学園生活のきまり8か条や校内の約束を守り人間関係づくりを進める取組を実施する。 ○いじめ・不登校の未然防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 丹後学園、児童と教師が一体となって、よりよい学習・生活環境づくりを目指した取組を進めます。 ・人権的な視点を基盤にした学級経営と諸活動を通して、児童の主体性やリーダー性を育成する。(異年齢活動) ・支援を要する児童への個別指導を丁寧に行う。 (教育相談の充実、欠席状況の把握、学園の実態交流、諸機関との連携、家庭との連携) ・職員会議や校内研修で児童の実態交流や研修を行う。 ・職員室で児童の様子や気付きを出し合う。 (いじめ・人権アンケート等の活用) 	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽フェスティバルや学習発表会等の行事や取組を通して感動や達成感を味わわせることができた。 ○不登校児童や配慮を要する児童に対して組織的な対応ができた。 ○児童だけでなく、保護者対象の非行防止教室が実施できた。 △再配置・中学校への接続を見据え、配慮を要する児童や気になる児童の記録を残していく。

<p>健康（体育）・安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭と連携し、健健康で安全な生活を営む実践力を育てる。 ・食育指導や体力つくり、基本的生活リズムを定着させる取組 ・避難訓練・事故防止・防犯指導・情報関係等の研修実施 	<p>日常的な活動、保健だよりや給食だより・学級だより等を活用しながら健康・安全に対する意識を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力つくり、生活リズム、食育指導、安全意識等を中心とした学級指導を行う。（給食試食会実施） ・よりよい生活環境を目指し、家庭との連携・協力依頼を行う。（学習の手引き、生活リズムの見直し等の取組） 	<p>△生活リズムづくりの協力依頼を家庭へ更に使う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○登下校の安全を考え、付き添い登校・付き添い下校を実施した。（特に積雪時） ○雪が多い日地域の方に家庭の除雪機で除雪してもらえた変りがたかった。 ○今年度は非行防止教室を3年以上で実施した。善悪の判断や情報機器の安全な扱い方にについて学ぶことができた。 	
<p>開かれた学校づくり</p>	<p>○地域の自然や文化を大切にする視点を基本に学習を進め、地域への情報発信をする。 (保護者や地域との協力・連携強化)</p>	<p>・郷土を愛する気持ちを育む教育活動を実践する。 (地域素材・人材との出会い、読み聞かせ、総合的な学習の時間・食育の取組、特色ある学校・児童会行事等) ・再配置をふまえ、児童が活動している様子を地域に発信するとともに、参観等を呼びかける。（学習発表会、授業参観、なわとび大会等）</p> <p>・学校だより、学級だより、ホームページ等を通して情報発信を行う。（小中一貫加配・コーディネーターと連携）</p>	<p>○地域・保護者、学校支援ボランティア等の協力で学習への意欲感心・広がり、地域の魅力を見直すことができた。ひとの出会いやふれあいを大事にした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校便りや学級通信だけでなく、ホームページを更新し情報発信ができた。 <p>△地域にも学校行事や取組の参観を呼び掛ける。</p> <p>○音楽フェスティバル出場に向けて総合教育センターの出前講座を実施した。学んだことを各担任が授業で活かすことができ児童も自信を持つて発表できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○丹後学園として見学や教材研究を一緒に行うことで、担任の学びを広げることにつながった。 △コミュニケーション能力の育成に向けた研修を行ない、日々の教育活動に活かす。
<p>研修（品質向上の取組）</p>	<p>○「楽しく学ぶ」ことができる授業実践の充実に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材研究を通して研修会を通して ・学園三校担任会を通して ・自己研鑽を通して (丹後、地域を知る) 	<p>・教師の専門性・指導力の向上を図るために研修を実施する。（授業公開を通して高まりあえる教師集団）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹後学園の授業公開等も含め、日常的に授業公開を行い参観することで学ぶ姿勢を持つ。（人の授業で学ぶ・指摘しあえる関係づくり、学園担任会の充実） ・教職員自身もコミュニケーション能力を身に付け学び合う。（指導法について聞く・教え合いができる教職員集団） ・外部研修には積極的に参加させる。研修で学んだことを伝達し実践させる。 	
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>① 丹後学園教育目標と丹後学園研究主題と合わせ、本校の基礎学力の定着・コミュニケーション能力の育成に力を入れる ② 最後の一年として行事や取組の参観を地域にも知らせるとともに、児童のがんばりを知つてもらうための機会を作る。保護者・地域にも協力を求める。 ③ 新学習指導要領に向けた内容や研修、先を見通しながら教育課程を進めるとともに、間人小学校との連携・連絡・相談等大切にする。</p>		

平成29年度学校評価自評報告

学校名 [京丹後市立聞人小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)		
教育目標 (丹後学園共通) 「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 <目指す学校像> 1 よく考え学ぶ学校 2 友だちと仲良くする学校 3 最後まで粘り強く努力する学校 4 家庭・地域のつながりを生かした学校	○基礎基本を定着させる学習を、全校で取り組むことができた。 ○繰り返しの活動をとおして、高学年はリーダーとしての意識が高まり、低学年へ配慮ができるようになった。 △学習の定着を詳細に検証し、課題分析を授業づくりになげる。 △集団生活での心得や思いやる心の育成は低学年から徹底する必要がある。	1 授業研究を中心に、ねらいが明確でわかりやすい授業を計画的に進める。 2 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。 3 困難なことにもねばり強く挑戦していくこうとする態度を育てる。 4 PTA・地域関係機関、保育所・中学校等との取組により連携を強化する。(小中一貫教育を含む)	○授業研究においては指導の系統性を意識し、既習内容をもとに児童が主体的に考える授業づくりを研究することができた。 ○電子黒板を活用し、児童に対してより視覚的に分かりやすい授業づくりをすることができた。 △研究主題に関する「絵・図・表・グラフ」と「式」と「式」を関連付けて考え、思考力・判断力・表現力の育成を図る指導のあり方を研究する。	○異年齢の活動をとおして、高学年はリーダーとしての意識が高まり、低学年への指示や配慮ができた。 ○定期的に個人面談を実施し、児童の困っていることなどを丁寧に聞き取り、児童の実態把握を行うことができた。 △集団生活での心得や人を思いやる心の育成について、低学年から徹底する必要がある。	
生徒指導	教育課程 学習指導 本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	・研究主題を「自分の考え方をもち、仲間とつながりながら思考を深め、豊かながら思慮する児童の育成」～「絵・図・表・グラフ」と「式」と「式」を関連づけて考える学習を通して～児童の学力課題を解決する。	・生徒指導の3機能を踏まえた、就学前から中学校まで一貫した生徒指導を進めることで自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。 ・生徒指導の3機能を生かした指導のもとに、教育相談部を中心に面談の実施を行うとともに情報共有し、組織的な対応を行う。		

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> 全学年体力にかかるる取組の充実と積極的な児童への指導を行い、学校を休まない強い体をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年体育の時間にサークットトレーニングを継続して行う。 日常の健康観察、起床時間、朝食、就寝時間等の点検などの取組を行う。 <p>△校外でのけが予防や安全な行動ができるよう指導の継続が必要である。</p> <p>△就寝時刻を早くし、意欲的な学習につなげることができるように、保護者に働きかける必要がある。</p>	<p>○授業開始前にサークットトレーニングをすることで、運動するための準備ができ、安全に体育の学習を行うことができる。</p> <p>△校外でのけが予防や安全な行動ができるよう指導の継続が必要である。</p> <p>○学校支援ボランティアとの連携により登校については一列で安全な登校ができた。</p> <p>△校内の危険個所や点検を行い修繕につとめたが、塩害により常に修繕が必要である。</p> <p>△下校については、児童の規範意識も弱く安全な下校ができるよう指導をする必要がある。</p> <p>△保護者への情報モラルに関わる啓発、情報提供を継続して行う。</p>
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> 3つの安全（生活・交通・災害） <p>※安心安全な学校生活ができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校支援ボランティアとの連携により安全な登校につなげる。 校内の危険個所点検を行い、適宜、修繕などをすることで教育環境を整える。 	<p>○学校だより、ホームページにより学校の取組や様子を積極的に発信する。</p> <p>・PTAをはじめ関係諸機関等との連絡を密に取り、協力を得る。</p> <p>・地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的活用を図り、教育活動の活性化と充実を図る。</p> <p>△教師の専門性はもちろんのこと、社会人としての良識ある言動や子どもとの内面に迫る指導力の育成に全力を挙げること。</p>
開かれた学校づくり			
次年度に向けた改善の方向性	<p>1 基礎学力・体力の向上、読書活動の推進</p> <p>2 教育活動を通じて法やルールを学ぶ</p> <p>3 思いやる心、自尊感情、自己有用感の育成</p> <p>4 丹後学園の研究主題である「コミュニケーション能力の育成」を目指す</p>		

平成29年度学校評価報告

学校名 [京丹後市立宇川小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果と課題 (自己評価)	
教育課程 学習指導	1 話し伝える活動、聞き受け取る活動を研究し、授業改善を図る。 2 少人数であることの特性を生かし、児童一人一人の学力の定着と伸長を促す。	1 授業において「話す・聞く」「伝え合う」ことを指導することと教育活動全体の中で多様な伝え合い・話合い活動を児童に実践させることの双方を連付けける。 2 児童一人一人の学力課題を分析し、個別の指導方針をもち、個の課題に応じた指導を継続的・改善的に行う。 3 家庭学習の習慣化を図る取組と基礎学力教科週間の取組を学期に1回行う。		○研究活動により児童の伝え合おうとする意識は高まり、教育活動全体での話合い活動が充実してきた。 △児童の学力を診断テストにより分析し、個別の指導方針を立てたが、保護者アンケートの「授業内容を理解しているか」「分かり考える授業か」は、9割に満たなかったことから、分析結果を生かした指導は、一層充実して行う必要がある。 △学力向上を図る取組は充実したが、学力の定着と伸長は、さらに継続して図らなければならない。 ○家庭の協力により、おおよその児童について家庭学習の習慣化が見られた。自分がから學習に取りかかることは、保護者アンケートでも8割であるので、さらに確かにしたい。	
生徒指導	1 児童自らが課題を解決しようとする実践力を育てるとともに、安定した学校生活を児童に送らせる。 2 児童の話し合う活動を多様に計画し、話合いにより課題を解決する体験を児童に積ませる。 3 人権専門を年2回行い、言葉遣いやいじめについて児童に指導する。	1 生徒指導部と特別活動部とが連携して生活目標を設定し、児童に振り返りをさせながら取り組ませる。 2 児童の話し合う活動を多様に計画し、話合いにより課題を解決する体験を児童に積ませる。 3 人権専門を年2回行い、言葉遣いやいじめについて児童に指導する。		○児童が学級で生活目標を立て、取組を通じて課題を解決しようと努力した。振り返ることにより、自他のがんばりを自覚し、次の課題を見出していき、安定した学校生活を送ることができた。保護者アンケートの「協力して取り組む」「進んでいいさつする」は肯定的意見が9割と高く、児童の姿としても現れた。 ○人権月間を年に2回に増やし、言葉づかいや自他を大切にすることを重点的に指導した。その結果、人権意識が高まつた児童が見られた。児童アン	

			4 いじめアンケートの活用と日々の児童状況把握により問題点を早期に発見し、指導につなげる。	○他の人権意識の高揚及び規範意識の醸成を図り、いじめ・非行の未然防止に努める。	○体力づくりでは、児童の関心や実践意欲を向上し持続させるように創意工夫し、体育的行事と関連させながら効果的に取り組めた。 △児童アンケートによると「安全に気を付けている」という回答が9割を占めているが、事故につながりかねない行動もたまに見られる。児童の危険予測能力を高めて安全に過ごすためには、安全指導や戸外運動を今後も充実させていきたい。
健康(体育)・安全	1 健やかな体と生活づくりに関わる児童の関心や実戦力を高める。 2 児童の安全に関する知識を養い、正しい判断力や行動力、危険を予想する能力を育てる。	1 学校行事と体育の授業との関連を図り、「挑戦・競争・おもしろさ」がある体力づくりの取組を行う。 2 安全に関わる行事及び学級指導等で、外部講師による学習や複数教員の連携による指導を行う。 3 異年齢による遊びや戸外遊びを仕組み、危険予測、心身の発達、運動能力の向上を促す。	○体力づくりでは、児童の関心や実践意欲を向上し持続させるように創意工夫し、体育的行事と関連させながら効果的に取り組めた。 ○安全に関する行事・指導は、毎日の天候や学校生活にある危険予防も含んで丁寧に指導し、大きくなりがちや事故を防いだ。 △児童アンケートによると「安全に気を付けている」という回答が9割を占めているが、事故につながりかねない行動もたまに見られる。児童の危険予測能力を高めて安全に過ごすためには、安全指導や戸外運動を今後も充実させていきたい。		
特別支援教育	1 教育的ニーズや個の特性に応じた指導・支援を計画的・組織的に実践する。 2 特別支援学級児童についての児童の理解を深める。	1 個別の指導計画・個別の支援計画等に基づき、PDC Aサイクルで指導する。 2 保護者や関係機関との連携を強め、定期的に懇談する。 3 特別支援学級のわくをを超えた学級間の交流や児童間での交流活動を多様に行う。	○個別の指導計画は作成したが、それを基に教室で支援することやその計画を評価することは、レベルを上げていかなければならぬ。 ○関係機関と連絡会をもち、指導・助言を受けて効果的な指導支援に努めた。 ○保護者との懇談は、理解と協力が得られ実施できた。今後も理解と協力を得て、効果的に実施していきたい。 △児童間での交流活動は、回数が少なく、十分だとは言えない。 ○特別支援学級児童についての児童の理解は、これまでの日常的な児童間のかかわりや年度当初の指導によりほぼ深まったと思える。		
特色ある学校づくり	へき地・小規模校及び地域の特性を生かし、児童の活躍と主体的な学びがある教育活動を開拓する。	1 伝え合うことを活動課題とし、体験活動、自主活動、異年齢集団での活動等により多様なコミュニケーションを児童に経験させる。 2 「丹後学」の展開において地域や家庭と連携し、地域を題材とした探究学習を充実させる。 3 丹後学園のへき地・小規模校加入校及び与謝地方へき地・小規模校教育研究会と共に研究・研修する。	○伝え合い・コミュニケーション活動は、各教科、総合的な学習の時間、学校行事等でも積極的に充実した。地域を知り、地域の良さを学び、地域と自分の今後を考える活動が展開され、児童はよい学びをし、地域を大切にしたいという思いを高めた。 △地域の理解と協力により、地域を題材とした探究学習がとても充実し効果的に出来た学年はあつたが、全部の学年でできるよかったです。 ○へき地・小規模校加入校及び与謝地方へき地・小規模校教育研究会と共にへき地・小規模校における指導と授業を研究した。		
次年度に向けた改善の方向性		1 学習指導は、重点研究により国語科の「話す・聞く」の指導について研究を深め、高めたい。自分の意見を聞いて考えを深める 2 生徒指導と特別活動による異年齢活動や児童主体の活動を仕組み、児童が活躍する場の充実を図る。そのことにより、いじめの未然防止や自他を大切にする心の育成、規範意識の醸成、体力向上と危険予測能力の育成につなげたい。	○いじめ防止対策委員会によるいじめアンケートの分析、非行防止教室・薬物乱用防止教室による指導に力を入れ、早期発見と未然防止に努めた。		

平成29年度学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立吉野小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
小中一貫教育モデルカリキュラムを活用し、地域の特色を生かした教育課程の編成を行う。日常の教育活動を充実させながら、生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を行い、児童が主体的・対話的な学びを通して、学力が向上する学校づくりを推進する。保護者・地域、関係機関との連携を深め、保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。	○校内等の研修や学園の合同授業研修等を通じ、日常における授業改善や授業実践充実の意識が高まるとともに、重点教科の国語科を中心的に協働的、主体的・対話的な学びができる。○学習や生徒指導等を中心に、すべての教育活動の中で、組織的・協働的な運営の意識が高まってきた。 △基礎学力の充実、学習意欲の向上に向けた取組と豊かな心の育成に向けた取組を家庭と連携して進める。 △信頼される学校及び特色ある学校づくりを更に充実させるためにも、保護者・地域との連携を深めること。	1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営等を進めること。 ○個々や学級の児童の学力課題を明らかにし、「わかる」「できる」授業づくりときめ細かな指導を継続的に行う。 (1) 指導と評価の一体化を意識した授業づくりを行う。 (2) ユニバーサルデザインの授業づくりを行い、基礎的な学習内容の定着に向けた取組を行う。 (3) 繰り返し学習の内容と方法を工夫する。(チャレンジタイム、補充学習等) (4) 教職員が児童との信頼関係を構築し、児童が安心して思いを伝えたり学んだりできる学習環境整備と授業づくりを行いう。	1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営等を進めること。 ○個々や学級の児童の学力課題を明らかにし、「わかる」「できる」授業づくりときめ細かな指導を継続的に行う。 (1) 授業づくりと評価の一体化を意識した授業づくりを行う。 (2) ユニバーサルデザインの授業づくりを行い、基礎的な学習内容の定着に向けた取組を行う。 (3) 繰り返し学習の内容と方法を工夫する。(チャレンジタイム、補充学習等) (4) 教職員が児童との信頼関係を構築し、児童が安心して思いを伝えたり学んだりできる学習環境整備と授業づくりを行いう。	1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営等を進めること。 ○個々や学級の児童の学力課題を明らかにし、「わかる」「できる」授業づくりときめ細かな指導を継続的に行う。 (1) 授業づくりと評価の一体化を意識した授業づくりを行う。 (2) ユニバーサルデザインの授業づくりを行い、基礎的な学習内容の定着に向けた取組を行う。 (3) 繰り返し学習の内容と方法を工夫する。(チャレンジタイム、補充学習等) (4) 教職員が児童との信頼関係を構築し、児童が安心して思いを伝えたり学んだりできる学習環境整備と授業づくりを行いう。	1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営等を進めること。 ○個々や学級の児童の学力課題を明らかにし、「わかる」「できる」授業づくりときめ細かな指導を継続的に行う。 (1) 授業づくりと評価の一体化を意識した授業づくりを行う。 (2) ユニバーサルデザインの授業づくりを行い、基礎的な学習内容の定着に向けた取組を行う。 (3) 繰り返し学習の内容と方法を工夫する。(チャレンジタイム、補充学習等) (4) 教職員が児童との信頼関係を構築し、児童が安心して思いを伝えたり学んだりできる学習環境整備と授業づくりを行いう。
教育課程 教育指導	1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりを推進する。	1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営等を進めること。 ○個々や学級の児童の学力課題を明らかにし、「わかる」「できる」授業づくりときめ細かな指導を継続的に行う。 (1) 授業づくりと評価の一体化を意識した授業づくりを行う。 (2) ユニバーサルデザインの授業づくりを行い、基礎的な学習内容の定着に向けた取組を行う。 (3) 繰り返し学習の内容と方法を工夫する。(チャレンジタイム、補充学習等) (4) 教職員が児童との信頼関係を構築し、児童が安心して思いを伝えたり学んだりできる学習環境整備と授業づくりを行いう。			
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	3 主体的・対話的な学びができる授業づくりを実践する。	2 授業実践力、指導力を向上させる取組を進め、学習内容の定着を図る。	2 授業実践力、指導力を向上させる取組を進め、学習内容の定着を図る。 (1) 学期ごとに学習指導強化月間を設定し、教師の指導力及び児童の学力向上の取組を進める。また、家庭学習においても、弥栄学園の取組と連動させ、家庭学習頑張り週間等の取組を推進する。 (2) 重点教科である国語科の授業研究及び弥栄学園の合同授業研究会を通し、教師の指導力、授業実践力を向上させる。 (3) 出前講座の活用や様々な研修の場を設定し、指導力の向上を図る。	2 授業実践力、指導力を向上させる取組を進め、学習内容の定着を図る。 (1) 学期ごとに学習指導強化月間を設定し、教師の指導力及び児童の学力向上の取組を進める。また、家庭学習頑張り週間等の取組を推進する。 (2) 重点教科である国語科の授業研究及び弥栄学園の合同授業研究会を通し、教師の指導力、授業実践力を向上させる。 (3) 出前講座の活用や様々な研修の場を設定し、指導力の向上を図る。	2 授業実践力、指導力を向上させる取組を進め、学習内容の定着を図る。 (1) 学期ごとに学習指導強化月間を設定し、教師の指導力及び児童の学力向上の取組を進める。また、家庭学習頑張り週間等の取組を推進する。 (2) 重点教科である国語科の授業研究及び弥栄学園の合同授業研究会を通し、教師の指導力、授業実践力を向上させる。 (3) 出前講座の活用や様々な研修の場を設定し、指導力の向上を図る。

生徒指導	1 生徒指導の 3 機能を生かした学級経営を行う。 2 人権意識や規範意識の高揚を図り、良好な人間関係づくりを行う。 3 いじめや不登校の未然防止に努める。	1 生徒指導の 3 機能を生かした学級経営を行いう。 2 望ましい集団活動や多様な体験活動を通して、好ましい人間関係やコミュニケーション能力の育成を図る。肯定的評価を基とし、自己肯定感を育てる。また、非行防止教室、法やルールに関する教育等の指導を通して、規範意識を高める。 3 児童の内面理解に努め、家庭との連携を密にする。教職員一人ひとりが児童、保護者との信頼関係を構築し、情報を共有化して、取組や対応等を丁寧に適切に、また組織的に、そして迅速に進める。	○日常的な異年齢集団活動を通して、高学年のリーダー性の育成と学年を超えた良好な人間関係づくりに向けた取組を進め、全校の一休感が深まった。 ○非行防止教室や法やルールに関する教育、様々な事象の教材化、家庭との連携等を通して、規範意識の高揚や心の成長がはぐくまれ、不登校 0 につながった。 △児童一人一人の内面理解や状況把握をきめ細かく行い、家庭への丁寧で迅速な連絡、連携を強化し、保護者、児童との信頼関係をさらに深めていく。 △生徒指導の 3 機能を生かした学級経営を行い、児童が安心し、安定した学校生活が送れるようになります。
		1 食育と健康な心と体力づくりの取組を進める。 2 学校事故の未然防止と登下校の安全確保をする。	○給食指導の中で食育を充実させる。また、年間を通して朝の体力づくり（マラソン、縄跳び）と毎学期の生活点検を通した生活習慣づくりを進める。 2 毎月、校内安全点検を実施し、安全な施設管理を行う。また、登下校の安全指導を徹底するとともに、PTA や地域のボランティア等と連携した取組を進める。
		1 特別な教育支援が必要な児童の個性や能力の伸長を図るために、個別の課題に応じた支援や指導方法の改善、指導の充実をする。	○障害のある児童や保護者のニーズに合わせた支援、取組を家庭と連携して進めることができます。 ○懇談を定期的に丁寧に行い、合理的配慮を明確にして個に応じた指導を進めることができます。 △安全や健康を守る意識を高める。
特別支援教育	1 伝統や校風を大切にし、体験活動を充実させる。 2 家庭、地域との連携を深める。	1 個別の指導計画・支援計画等を活用し、本人や保護者のニーズに合わせた支援が行えるよう懇談を丁寧に行い、個々の合理的配慮を明確にしながら、個に応じた指導の推進及び充実を図る。 2 障害のある人を正しく理解するための理解教育を計画的に進める。	○障害のある児童や保護者のニーズに合わせた支援、取組を家庭と連携して進めることができます。 ○懇談を定期的に丁寧に行い、合理的配慮を明確にして個に応じた指導を進めることができます。 △安全や健康を守る意識を高める。
		1 校内研修を充実させ、指導力、授業実践力を高め、学力向上に向けた取組を進めます。 2 児童一人一人の内面理解に努め、きめ細かな対応や指導を継続して行い、豊かな人間関係づくりと心の教育の充実を図る。 3 弥栄学園小中一貫教育の方針、年間計画に基づいた保幼小、小小、小中の連携した取組を更に推進する。 4 信頼される学校づくりと特色ある学校づくりのためには家庭・地域との連携を更に密にし、取組を進めます。	○受け継がれてきた伝統や校風を大切にした取組を進めることで、特色ある学校づくりにつなげられた。 ○学習に保護者や地域の人材を積極的に活用し、体験活動を充実させることができます。 △新たな地域の人材を確保し、特色ある学校づくりにつなげる。

平成29年度学校評価自評報告

学校名〔京丹後市立弥栄小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
かしこく やさしく たくましく～自主・自立～		○肯定的評価のある風土により、安定した学習環境の確立	1 学力の向上(授業づくり)
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	1 学習規律の確立 2 言語活動の充実 「書く力」の育成 3 学び合える授業の構成 4 読書活動の充実 5 家庭学習の充実	1 弥栄学園「学びのルール」の徹底指導を行う。 2 全教科・領域の中で言語活動(特に「書くこと」)の充実を図り、思考力・判断力・表現力を育成する。 3 安心して学び合える学習環境の中で、少人数加配の活用や指導方法を工夫し学力を定着させる。 4 図書支援員活用やPTAと連携し、読書に親しませる。 5 弥栄学園「家庭学習の手引き」に基づき、家庭学習の習慣化を図る。	○学習規律が身に付き、しつかり聞き・考えることができるようになつたと、90%の児童が実感している。 ○全教育活動において言語活動(特に書くこと)の重視により、表現することに抵抗がなくなった。 ○漢字テストを繰り返し実施し、3学期初日のテストでは、全校平均点が95.3点となつた。 ○△学力充実加配を活用し少人数授業の実施や指導方法を工夫したが、学力の定着はすぐには出でない。 ○家庭と連携した読書指導により、全校で1万冊読破は12月に達成し、さらに記録を伸ばせた。 ○弥栄学園共通家庭学習の取組により、家庭学習が習慣化し、宿題や問題違い直し等、やり切る癖がついた。 △様々な取組を駆使して実施しているが、個人差もあり、なかなか学力が定着したとは言い切れない。 △今後さらに、全校体制で興味を引く取組を実施し、学習意欲を向上させ有必要がある。
生徒指導	1 規範意識の醸成 2 ふるさと・人・友達とのつながる力の育成 3 自他を尊重する心の育成 4 気持ちのよい挨拶の励行 ・挨拶・お礼・返事 ・失敗を素直に認め教材化へ 5 いじめの未然防止や早期発見・早期対応	1 全校児童が公平・公正に生活するためのルールやマナーを児童自身に考えさせ、守らせることで規範意識を高める。 2 学級遊びや異年齢活動等や保幼小連携、小小・小中連携を通して人間関係力を高める。 3 自他のよいところを見つけ合う目とそれを伝える心と言葉をはぐくみ、習慣化させる。 4 PTA・地域と連携し、挨拶の心地よさを体得させる。 5 「あいさつ・ありがとう」が素直に言える心をはぐくむ。	○学校のきまりやルールを守り自分勝手な行動をすることなく、トラブルが激減した。 ○学級や異年齢での活動や遊びを意図的に仕組むことで、自発的に外で遊ぶ児童が増えた。 ○△「いいところメガネ」「スマイルリーダー」の取組により、自尊感情が高まってきたが、意欲的に取り組める児童が増えたとは言い難い。 ○△PTAと連携し取り組んだが挨拶や返事がまだ小さな職員室へ入る時、名前と用件を言う等のマナーでは、100%の児童ができるようになった。

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康（体力・安全）	1 責任感の育成 2 体力づくりの推進 3 生活習慣の確立 4 チャレンジ精神の育成	1 係や当番活動、委員会活動では、自分の役割は責任をもつてやり遂げる力を育てる。 2 「ほけんだより」による保健指導や、食に関する指導、生活点検の取組により、運動や栄養・睡眠が体に大切なものであることを指導する。 3 PTAと連携し生活習慣を身に付ける為の取組を行う。 4 朝マラソン・朝縄跳び等、目標を持つて取り組ませる。	○高学年を中心とした児童会活動や委員会活動で、責任感が醸成できた。 ○98%の児童がマラソンや読書等、「自分の記録にチャレンジすることことができた」と、満足している。 △PTAと協力して早寝・早起き・朝ごはんに取り組んだが、家庭での生活には課題が残る。 ○挨拶運動は、毎月PTAと一緒に取り組むことができた。 △交通事故はなかったが、登下校中の不注意による怪我が多くかった。危険予知能力を高める指導が必要である。
	1 学校からの発信 2 地域学習や丹後学の充実 3 地域人材の積極的活用	1 弥栄学園や本校の教育活動を、保護者・地域へ発信し、理解と協力を求める。(学校だより全戸配布・HP等) 2 広い校区の学習を積極的に取り入れ、ふるさとを愛する心情を育てる。 3 地域の方々の人材活用により、児童と地域の方を結ぶだけではなく、学校が地域の核としての役割を担う。	○HPで教育活動をタイムリーに広報したこと。 理解が深まった。現在1日約500件以上のアクセスがある。 ○生活科や丹後学により、故郷の良さに気付く児童がが増えた。 ○地域支援ボランティアの積極的な活動により、学習効果や指導力向上だけでなく、学校が地域の核としての役目を果たし、弥栄小地区の活性化につながった。
	1 特別支援教育	1 支援を要する児童理解の為にもユニバーサルデザインを意識した教室環境・授業を構築する。 2 関係機関と連携し、個に応じた指導の研修を深める。 3 全児童・全保護者が安心できる教育活動推進のために、教育相談機能を高める。特に発達上配慮を要する児童等の教育相談を充実させ、不登校・いじめの未然防止及び、早期発見・早期対応に努める。	○発達障害を含む支援を要する児童理解や職員研修に努め、全学年でユニバーサルデザインを意識した学習環境や授業等の関係諸機関と連携すると共に、個に応じた指導方法について全教員が研修できた。 ○毎週の児童交流により、児童の心の変化を早期に発見し、早期対応することは、早目の保護者面談による児童については、改善できた。
	次年度に向けた改善性	1 学習規律が定着してので、質の高い学力を身に付ける必要がある。 2 自尊感情を高める取組を通し、学習意欲や積極性を身に付けさせたい。 3 危険予知能力を身に付けさせる必要がある。 4 教職員一同の協働体制をさらに強化する	

平成29年度学校評価自評報告書

学校名 [京丹後市立久美浜小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)	
教育課程 学習指導	1 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、DRTの結果を昨年よりも伸ばす。 2 「聞くこと」「話すこと」の力を昨年よりも伸ばす。	1 授業時間内で習熟するための工夫と「パーフェクト計算」等の全校的な取組を進める。 2 授業の中で生徒指導の三機能を視点に置き、学年に応じたペアやグループ活動を作り上げるなど学び合いを通して主体的な学習活動を進める。 3 家庭学習の充実を図るために、学園全体の「がんばり週間」と連動させて、内容の改善を図る。		○重难点である学力の向上はDRTの結果で標準得点の平均点が国語はすべての学年で昨年を上回り、算数は4学年が上回った。個別に見ても学年が上がり学習内容が難しくなつていても中で半数が前年得点より上回り、25%程度が昨年同等の力を発揮できた。 ○具体的の方策の1～3それぞれを運動させて取り組めた。特に学び合いを意識できた。 △今後さらに話し合い活動を含めた学び合いのスキルを高めていく。	
生徒指導	1 気持ちよく生活できるための必要なマナーやルールを考え行動できる力、相手を思いやる心の育成を進めるための授業を進め、「いじめ」「不登校」等の諸問題に対し、未然防止に向け日常的な指導、相談活動をさらに充実させる。	1 豊かなく人間性をはぐくむために、児童会活動を通じた異年齢活動や学級づくりにおいて、肯定的評価をもとにした教職員と児童との信頼関係を高めることができた。このことをベースとして落ち着いた中で、意欲的に取り組む力が伸びてきた。 ○久美浜学園全体として「法やルールに関する教育」を進め、校内研修や全学級での授業を推進できた。 ○「いじめ」「不登校」とともに、年間を通じて継続的なものはゼロであり、今後も丁寧な見とりと支援を続けていく。			
本市の小中一貫教育の諸計画					

健康（体育）・安全及び各学園の重点等を基盤として	<p>1 楽しく体を動かす習慣を身に付けさせるとともに、様々な取組を通じて我慢強く活動する心を育てる。</p> <p>2 安全な生活を営むための対応力を育成する。</p>	<p>1 日常生活を当たり前にやりきる子どもを育てるために、基本的な生活習慣、日常的な学校生活、家庭学習等一日のルーティンの確立を目指して粘り強い声かけをする。</p> <p>2 交通ルールの順守や不審者への対応、安全な生活を進めるために、事例を教材化し情報を探査し判断できるようにする。</p> <p>△登下校や学校生活の中での危険に対する意識を常に高めていきたい。</p>
研修（品質向上の取組）	<p>1 重点課題解決につながる校内研修・研修の充実を図る。</p> <p>2 教職員としての専門性、資質・能力の向上に向けた研鑽を行う。</p>	<p>1 学園研究との整合を図り、重点教科（算数科）を通して研究に組織的に取り組む。その推進に向けたリーダーの育成を進める。</p> <p>2 職務や指導等に関する様々な情報を丁寧に知らせ、ともに考えていく。そのためには、校長・教頭・教務主任の三者の機能化を図る。</p>
特色ある学校づくり	<p>1 保幼小中 10 年間を見通した一貫教育を進め、学校課題の克服を進める。</p> <p>2 地域に学び、地域とともに歩む学校にする。</p>	<p>1 久美浜学園 2 年次として、学園経営と学校経営の一体化、連携を更に進める。その結果として、互いの取組により理解するようになります。教科や総合的な学習等において様々な地域の資源から学ぶ。そのための地域の方々との触れ合いを大切にする。</p> <p>△登下校や学校生活の中での危険に対する意識を常に高めていきたい。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>(1) 久美浜学園全体として 10 年間を見通した方向性と今進めている取組とを常につなげる意識を持つ。</p> <p>(2) 学力の向上は今後も本校の重点課題であり、その実現に向けて①肯定的な評価をもとにした豊かな学級づくり、②より力を高めるための授業研究と準備、③児童の主体的な学びを支える「学び合い」と基礎基本の徹底を進めていく。</p> <p>(3) 下校時刻の変更によって生じる放課後の時間を活用し、研究・研修や準備を進めしていくことによって、上記(1)(2)を目指して進めていく。</p>	

平成29年度学校評価報告書

学校名 [京丹後市立高龍小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「意欲的な活動を通して自分たちの考えを生かす」 1 学校課題の把握、組織的対応での解決 2 教育相談の充実と寄り添う指導の実践 3 地域連携による学習・生活力の向上		○組織での丁寧な打ち合わせを生かし、児童一人一人が学習・生活面で輝けるような場をつくり、力を発揮できるように取り組めた。 △学級経営について差が大きく、全体での申し合わせた実践に差が出てしまい児童の戸惑いがあった。	・学級力を高める…意欲的に児童を活動させ学習・生活にメリハリを付ける。自分たちの意見をどうしたら実現できるのかを話し合わせ、協力できる力を育成する。 ・教員の活動意欲の向上…成果を認めつつ改善方策を出せる運営会議・企画委員会を行う。課題へ意欲的に取り組む。
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	○学力充実に向けた基礎・基本の学習の徹底 ○思考場面や意見交流の場面を大事にした授業実践	・学習規律を定着させ、基礎・基本力を確かなものにする。 ・聞く・話す・書く・計算する力の育成に向け、ドリルや宿題などで全校で取り組む。 ・思考場面を確実に授業に組み込み、一人一人を授業に積極的に参加させ、練習問題まで取り組める指導を行う。 ・加配教員による丁寧な個人支援を通して、児童の課題を解決に向ける。 ・めあてを持たせわかる喜びのある授業をめざし、学級経営交流を重ねながら、話し合いの仕方や自分の言葉にして考えてみる。 ・誤答整理とともにその傾向をとらえ、本校の課題として学力テストの誤答分析による課題の明確化、解決に向けた取組の実践	○児童は週1回の朝会での話を、前を見てしつかり聞くことができるようになった。教室に戻り内容が聞き取れたかどうか確かめる担任の工夫も生きた。 ○久美浜学園の各学年に応じた家庭学習の時間を確認し、その内容を交流した。 ○話し合う場面を入れることにより、児童は自分の意見を持ったり相手の意見を聞き取ったりして、前向きに「聞く・話す」ということができるようにになり、考える時間が増えた。この指導の繰り返しで話し合いが好きになった児童が増えた。 △テストを最後まで読み進める力や、何事もテキパキと進めていける力の弱さが克服できなかつた。指導の仕方を工夫し、単位時間にある程度の量をこなす力をさらにつけていくことが今後の課題である。
生徒指導	○「話し合う」力の育成 ○学力テストの誤答分析による課題の明確化、解決に向けた取組の実践	・「学校の決まり」遵守に向けた指導を、年間を通して機会を生かして指導する。 ・生徒指導・特別活動などをリンクさせ、豊ましい行動を示し丁寧に継続して指導を行い、児童の心の中に入れていく。 ・保護者からの悩み相談を丁寧に受け、解決に向け組織的に取り組む。	○生徒指導・特別活動のリンクで、児童に取組の目的を理解させ、行事など積極的に行なうことができた。 ○様々発生した問題事象に分掌としてすぐには會議を持ち方針を決めることができたこと、児童の心に丁寧に寄り添つたことでほどんど解決することができた。また保護者対応も同日行なったことで信頼感も高まつた。 △晴れる学年がないように、児童・保護者の悩み相談などを丁寧に受ける。

健康（体育）・安全	<p>○運動に親しみ、体力の向上を図る</p> <p>○家庭との連携による規則正しい習慣作り</p> <p>○安全指導の徹底</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業や、朝・中間休みなどを通して学級・チームなどの単位で、楽しい運動を計画的に実践させる。 ・苦手なことに対しても、根気強く一つのことを最後までやり切る心を育てる。 ・早寝・早起きをはじめとする基本的な習慣を、家庭での育成週間を設け保護者と共に確立できるようする。 ・除去食会議と給食委員会を月に1度持つことで、除去物の徹底、調理員・事務職員とも交流し、給食安全指導職員全体で見守る態勢をとる。 ・にこにこ力一の下校指導により児童の安全を図る。 ・危険回避能力を身につけるために訓練を行い、もしもの時の動きを指導する。 	<p>○「話し合い」を特別活動の中に度々取り入れたことで、高学年の積極性が高まり、運動のなかの苦手なことにも継続的に取り組む姿が見られた。</p> <p>○給食委員会を本年度から立ち上げ、教頭を中心に、給食指導、保健、会計、調理を受け持つ職員が月1回集まり、除去食会議と共にコンスタンストを行った。全職員に報告することで課題の共有ができる、指導に役立てることができた。</p> <p>○家庭学習頑張り週間に合わせ、基本的生活について点検・見直すことについて家庭との連携が取れた。</p> <p>△生活習慣確立に向け、難しい家庭もある。習慣確立が健康と結びつき学校生生活を快活にすること、学力向上につながることをさらに啓発していく。</p>
特別支援教育	<p>○学園での連携した取組を進めめる</p> <p>○校内委員会の組織的継続的な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服させる。 ・入級児童以外の児童の困り感について校内委員会で交流し、よりよい支援の仕方を学び実践に生かす。 ・SSWやSCとの交流を行い、指導に生かす。 	<p>○校内委員会による各学年での困り感のある児童を丁寧にピックアップし、保護者連携も含めて授業・家庭学習について個別の課題の中で話し合うことができた。</p> <p>△SSW・SCとの連携による指導を継続していくこと。</p> <p>△一人一人の障害を理解し、クラスでの全体指導と個別指導をつなぎながら両立させていくことが大事である。</p> <p>○地域の学習や地域の名入探しなど、高龍地域に生きる人たちについて学習を通して学ばせることができた。教えていただいた太鼓の発表も行い、その経験が思い出深い学習となつた。</p> <p>○学校参加による地区運動会を今年初めて実施できた。</p> <p>△地域主催の子どもたちの遊びや学び教室との連携を深め、高龍小児童についての理解を深めてもらう機会とする。</p>
開かれた学校づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力を探り、素材の収集と掲示を行い整理する。 ・高龍地域の魅力を体得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力を探り歴史や産業、地理的な特徴など学習を通して深く学ばせる。 ・地域の方と触れる機会を作り、高龍地域の良さに十分触れさせ、まとめ・発信させる機会を作る。 ・地域主催の子どもたちの遊びや学び教室との連携を深め、高龍小児童についての理解を深めてもらう機会とする。
次年度に向けた改善的方向性			<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の育成をさらに図つていくため、授業の進め方や家庭学習の内容交換を充実させると共に、時間を意識した指導を徹底させる。 ・「話し合う」ことで自分の意見を持つことや理解を深めていく方向をそろえていく。 ・児童の実態を丁寧に把握することを常に心がけ、児童とのコミュニケーションを増やすと共に保護者との連携も継続して行う。 ・教員の得意不得意をつかみ、どこでこの人をどう動かすのか、どう伸ばしたいのかを考え人材育成に努める。

平成29年度学校評価自己評価報告書

学校名 [京丹後市立かぶと山小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
久美浜学園教育目標 ふるさとを愛し、 意欲的に学び、やさしい心をもち、 根気強く努力する子どもの育成 目指す児童像 (知) 意識的に、質の高い学力を身につけようとする子 (徳) 自ら正しく判断・行動し、豊かな心をもつ子 (体) 心身を鍛え、粘り強く最後まで協力して取り組む子	○小中一貫教育初年度の取組や市学校給食研究発表会に向けた取組等を通じ、教職員の一致した取組姿勢を築くことができた。学校の安定・学校全体の落ち着いた雰囲気につなげることができた。 ○特別支援に関わる児童への対応を丁寧に行うことができ、適切な児童理解や就学指導へと広げることができた。 △言語能力の育成につながる、意図的計画的な読書活動等の取組が十分行なうことができなかつた。	(1) 居心地のよい学校 安心と安定のある学級経営の充実 望ましい人間関係を築く力の育成 (2) 学力向上を図る学校 基礎基本の定着、思考・表現・判断力(活用)を充実させる学習活動の推進 (3) 家庭・地域にひかられ、信頼ある学校 家庭や地域と協働する学校づくりの推進			
評価項目 評価項目 重 点 目 標	具体的方策	成果と課題(自己評価)			
教育課程 学習指導	児童一人一人に基礎・基礎・表現力、学習意欲などの「質の高い学力」を身に付けさせ る。	・分かる、できる大切に授業をし、ドリルの時間等で反復練習して基礎学力の定着を図る。 ・学習規律(チャイム行動、姿勢、聞き方・話し方)の確立を図る。 ・言語活動(話す、聞く、書く)に充実に向け取り組む。 ・学習内容の習熟のため家庭との連携を深め、家庭学習を充実させる。 ・学習の基盤となる「読書活動」に積極的に取り組む。	○授業研修を全学年実施し、事前研修の充実により多くを学び、指導について確認し合うことができる。 ○家庭学習頑張り週間を設定してPTAと連携して取り組めた。 △学習規律について言語活動を意識した取組と運動させながら引き続き取り組む必要がある。 △方法面や内容面について発達段階や学年の実態を考慮しながら検討し取り組んでいく。	○日々肯定的な声かけに心がけ、人権専門や人権月間の取組と運動しながらお互いのよさを見つめることができるよう進めることができた。 ○人権の取組と合わせていじめアンケートを3回実施した。発生したトラブルに対して適切に対応でき、保護者との連携も深めながら進めることができた。 △事象発生に対する対応は適切にできだが、事象を発生させない取組(予防的な取組)については提起をして取り組むことはできたが定着するまでは至らなかつた。 △ユニーク・バーサルデザインとはどうすることなのかを研修することで深め、学級経営の中に意図的に仕組んでいくようにしていく。	
生徒指導	安心と安定のある学級経営の充実を図る。 いじめを許さないことはもちろん、見過ごさない、タイムリーな指導を行う。	・生徒指導の三つの機能(自己決定の場、自己存在感、共感的人間関係)を活かした学級経営の推進により、深い信頼関係に基づく人間関係を育成する。 ・ユニバーサルデザインを取り入れた学級経営に取り組む。 ・人間関係のトラブルの解消の取組を通して、自己と他者との折り合いの付け方等について学ばせる。 ・日々の肯定的評価の積み上げにより、お互いの良さやがんばりを認め合える集団づくりを進める。 ・ルールを守ることを大切にし、侵害行為のないようにする。 ・年3回、学級の様子を測るアンケートを実施・分析し、児童の学級における状況を的確に把握し、いじめや暴力、不登校の未然防止や改善に役立てる。			

健康（体育）・安全	<p>元気で規則正しい生活がで き、健康で安全な生活を送る ことができる児童を育成す る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝の体力づくりに年間を通して計画的に実施する。 ・朝の体力づくりに年間を通して計画的に実施する。 ・児童の欠席が多くなるようないよ うに、連続欠席とならないよう にする。全員登校の日数が多くなるよ う、いろいろな機会を通じて児童に も保護者にも呼び掛け ・登下校の安全に対して安全ボランティアの方々と連携した 取組を進める。（付添登下校、にこにこカーネによる見回り、 毎月の登校指導等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通じて計画的に朝マラソンに取り組めた。約束事を整理し集中して取り組めた。 ○長期休業明けに生活リズムを整える取組を行い、体調不良による欠席も少なくなった。欠席児童への対応を行った。 ○定期的な登校指導、下校指導に原則的に行うことことができた。 ○登校時の安全に向けて安全ボランティアの方々に連携・協力を得ることができた。 △不登校児童について着実に改善を見ることはできた が、全員出席の日数は大変少なかった。
特別支援教育	<p>配慮を要する児童を中心には 全ての児童に対して合理的な 配慮に心がけ、適切な支援が できるようとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育指導員の効果的、計画的な活用を図る。また状況に応じて柔軟な対応ができることも大切にする。 スクールカウンセラーや市教委臨床心理士の効果的な活用を行い、配慮を要する児童への有効なサポートを探る。また、必要に応じて保護者への啓発を進めていく。 より専門性の高い機関と連携をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○配慮を要する児童の交流を丁寧に行い、教職員間で児童理解を進めることができた。 ○中学校SC、市の臨床心理士、巡回相談等の連携活用により、児童理解が進み、適切な対応に心がけることができた。 ○児童の支援計画の作成を進めることができ、より計画的で見通しを持った対応に向かうことができた。 △必要に応じた集まりは持てたが、さらに定期的に部会を開催することで児童の実態把握を丁寧に行っていく。
開かれた学校づくり			
次年度に向けた改善的方向性			

平成29年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立峰山中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、 共に学ぶ生徒の育成 【めざす学校像】 ・生徒にとっては魅力ある学校 ・家庭、地域社会にとつては開かれた学校 【めざす生徒像】 ・意欲を持つて自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒 【重点課題】 ・確かな学力の充実・向上 ・豊かな人間性の育成 ・信頼を高める学校づくり	【小中一貫教育完全実施】 ○小中一貫教育における学習指導の取組を受け、校内授業研究会を実施し授業力の向上を図る研修ができた。 【確かな学力の育成】 ○各種テスト結果をもとに本校の学力実態を把握し、学力の回復と充実の為の具体的な手立てが実施できた。 △家庭学習頑張り週間は実施できだが、年間を通しての家庭学習の指導が不十分であり改善を要する。 【豊かな心の育成】 ○全校集会での集合解散の状況や集会時の様子から、生徒の落ち着きを感じられる。今後も生徒の主体的な活動を組織的に進めると事が大切である。 △不登校生徒や不登校傾向生徒の未然防止の為、初期段階での組織的な取組が必要である。 【信頼を高める学校づくり】 ○学校だより、ホームページでの情報発信等広く市民へ情報報を発信する事ができた。	【小中一貫教育の推進】 ・生徒一人人が自己肯定感を持ち、生き生きと活動する学園を目指す。 ・小中連携の取組内容を学園内全教職員が共通理解し、組織的・計画的に実践する。 【確かな学力の育成】 ・目標と指導と評価の一体化を進める。 ・生徒指導の3機能を生かした授業実践を進める。 ・家庭学習習慣の確立を図る。 【豊かな心の育成】 ・人権意識及び規範意識の醸成を図る。 ・不登校やいじめの未然防止のための組織的計画的な取組を進める。 ・豊かな食生活を目指し食育を推進する。 【信頼を高める学校づくり】 ・学校・地域・家庭の連携を一層強化する。 ・家庭の教育力を高めるための活動を進める。	○小中一貫教育の重点を「行動連携」から「授業づくり」にシフトし、どの教科においても、生徒同士をつなぎながら共に学びを深めるような手立てが組まれるようになってきている。 ○各種学力調査において、全国・府平均を上回る結果を出している。また、調査結果を分析し、その後の授業改善に生かせた。 ○放課後補習、長期休業中の学習会、峰山学園家庭学習がんばり週間等の取組を充実させることができた。
本市の小中一貫教育の	教育課程 学習指導	・指導方法の工夫改善により 学力向上と学習意欲の向上 を図る。 ・学習規律を確立させるとともに、家庭学習の充実を図る。	・「わかる」「できる」授業を推進するため小中で一貫した学習指導方法を研究する。 ・5・6年担任と数学科教員が協働して総括テストを作成し、目標と指導と評価の一体化を進める。 ・各種テスト結果の分析に基づき、授業の在り方や補習・補充学習、小テストや繰り返し学習等の工夫を行う。 ・週末課題や日々の宿題の充実を図り、家庭学習充実の取組を保護者と連携して取り組む。 ・少人数、TT授業(数学・英語)を効果的に実施する。

生徒指導	・生徒の内面に迫る指導を行 い問題事象の減少を図る。 ・生徒の実態を早期に把握し、 不登校の解消と未然防止を 図る。 ・生徒の主体的な取組を進め 自己肯定感を育てる。 ・関係諸機関との連携を進め る。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題事象の未然防止、規範意識の醸成のため、生徒との ふれあいの時間を確保し、毎週の生徒指導部会及び学年 会で情報交換し全教職員で指導する。 ・教育相談部会やケース会議で生徒の実態を把握・分析し、 不登校の解消と未然防止に向け、具体的な方針を立て実 践する。 ・全校集会・学年集会の実施や、生徒会活動において、生 徒の主体的な活動を組織していく。 ・子ども未来課・児童相談所等関係機関と連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校全体が落ち着いており、問題事象は大幅に減少し ている。 ○△不登校生徒の出現率は、1月末現在で1.4%と昨年度 より0.9ポイント改善している。しかし、家庭的状況が 厳しく、不登校の解消には至っていない。今後も重要 課題として取り組む必要がある。 ○「輝きの峰中集会」を持ち、生徒の良いところを全校 に返し、前向きに取り組む雰囲気を醸成できた。 ○専門機関と連携し、適宜ケース会議を開催できた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・保健教育を系統的に進める。 ・食育の推進を図る。 ・安全意識の向上を図る。 ・体力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> △○今年度、自転車による交通事故が9件（2.23現在） と多発した。3学期より、自転車乗車振り返りシート の取組を始め、安全運転の意識向上を図った。 ○計画的に避難訓練を実施し、教職員・生徒の危機対応 意識を向上させることができた。 ○部活動や舟プロ陸上、駅伝大会等で、素晴らしい成績 を収めることができ、学校全体が活気づいた。 ○飛天ボランティアに70人、PTA地域情掃部ランティ アに100人の参加があり、地域に貢献しようとする意 識の高まりがみられる。校内の清掃ボランティアへの 参加者も増加傾向にある。 ○△ホームページや学校便り等で積極的に生徒の活動の 様子を発信した。保護者から「もっとホームページを 更新してほしい」との要望があり、改善が必要である。
開かれた 学校づくり	・地域や保護者に積極的な情 報を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会等で教育内容、生徒の活動等を丁寧に保護者に伝 える。 ・ボランティア活動を通して地域貢献の意識を高める。 ・ホームページ、学校便り、学級便り等を用い、積極的に 生徒の良い面を地域に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年度当初の計画通りキャリア教育を実施できた。その 成果の一端を立志式で広く地域に公開した。 ○保護者面談、説明会等を丁寧に行い、保護者との信頼 関係づくりに努めた。結果的に、保護者アンケートの 全項目で、肯定的評価が昨年度を上回った。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を計画的に推 進する。 ・説明会・進路相談の充実を 図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動に基づきキャリア意識の向上と啓発を進める。 ・年間計画に基づいた系統的な進路指導を進める。 ・保護者・生徒向けの進路説明会を早期から行う。 ・二者、三者面談を早期に開催し希望進路実現を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年度一貫教育という手法を用い、新学習指導要領で提起された「主体的、対話的で深い学び」に近づけるよう、さらに授業改善を進める。来年 度は、英語科を中心に、峰山高等学校との連携も強化する。 ○不登校の解消と未然防止に向け、今年度成果のあった方策（①管理職の教育相談部会への参加、②教育相談部会への心の教室相談員・スクール カウンセラー等の参加、③こまめなケース会議の開催）も含め、総力を結集して組織的に取り組む。
次年度に向け た改善の方向 性	1 諸計画及び各学園の重点等を基盤として 2 不登校の解消と未然防止に向け、今年度成果のあった方策（①管理職の教育相談部会への参加、②教育相談部会への心の教室相談員・スクール カウンセラー等の参加、③こまめなケース会議の開催）も含め、総力を結集して組織的に取り組む。		

平成29年度学校評価自評報告

学校名〔京丹後市立大宮中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
1 夢や希望をもつて未来を切り拓く能力と実行力の育成	○教育活動全体を通して話し合い活動や討論活動を積極的に導入し言語活動の充実を意識した学校運営ができた。	1 質の高い学力の育成に向けた、学びの基礎力の徹底による学習規律・習慣の確立と言語の力の育成に向けた討論活動を充実させる。	○小中合同授業研究会では、各校の学力実態や研究実践を学び自校の取組に生かすことができた。
2 学習意欲を高める授業の充実と家庭学習の定着	○校内研修を充実させたために、人権教育をはじめ道徳教育や特別支援教育など外部研修を伝達させ研究を推進し共通理解が図られた。	2 三年間を見通した進路学習の充実と目的意識を高め自らの進路を切り拓く能力を育成する。	○総合的な学習の視点に立ち、自ら課題を見つけ主体的に考えさせることができた。
3 健康な体と豊かな心の教育の充実	○授業についての生徒評価は、「わかりやすい」が26年度82%、27年度86%、28年度85%と継続して高い。また、総合的に見て「よい学校だ」と思うにしても、26年度86%、27年度83%、28年度88%と高い数値で安定している。	3 組織的な生徒指導を展開し、生徒指導の三機能を充実させる。また、分掌間の連携を強め、いじめや不登校生徒の未然防止と早期発見・早期対応に努める。	○言語活動の充実に向け、教育活動全般を通し、話合い活動や討論活動を積極的に導入し、思考力・判断力・表現力等の育成に努めた。
4 信頼される学校づくり	△学力の定着・向上に向け、授業と運動させた家庭学習の取組や少人数授業を生かした授業改善の取組を推進していく。	4 健康や体力の向上に努め、心豊かな人間性を育む。	○授業の生徒評価は、「わかりやすい」、27年度86%、28年度85%、29年度89%と継続して高い。
5 教職員の資質能力の向上		5 人権尊重を培う教育の推進と教職員の指導力向上に向けた研修の充実を図る。	△全国学テや府学テは各学年とも平均点は上回っているものの、基礎学力に課題を有する生徒が各学年に約15%見られることがから、今後も学習支援を積極的に進めていく必要がある。
		6 小中一貫教育をはじめとする、校種間連携の推進に努める。	

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の生指合同部会の開催 ・組織的な生徒指導体制の確立と規範意識の向上 ・学級経営の充実と好ましい人間関係の育成 ・不登校生徒の未然防止と早期対応、早期解決 ・いじめ防止の徹底と人権感覚の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同部会により、各校の事例報告と指導について研修する。(情報機器の実態把握、正しい使い方を含む)指導体制を確立させ、きめ細かな指導と具体的な方策による迅速な対応を行う。 ・生徒アンケートを実施し、教育相談活動を行なう。 ・定期的に生徒指導部と合同で教育相談部会を開催し、学校体制として具体的な動きを行う。 ・いじめを見逃さない人権感覚と生徒との信頼関係の構築を図る。全校でいじめゼロ宣言の取組を実施する。 <p>○各校の実践事例の課題を整理し、児童生徒の主体的活動や保護者対応等、一致した方向性が見いだせた。</p> <p>○生徒指導と教育相談を一体化させ、機能化が図れた。</p> <p>○学校環境適応感診断を実施し、学校や家庭がもたらす影響を分析し、個々の生徒の指導に役立てた。</p> <p>○生徒の規範意識の高揚、人権の尊重、自己有用感を培う取組は、生徒同士が「協力し合い助け合えた」27年度92%、28年度94%、29年度96%と上昇し、安定した高い数値である。</p> <p>○いじめ事象における未解消件数は現在はない。</p> <p>△学年が上がるにつれて不登校生徒が増加傾向にあり中連携や関係機関等、組織的な取組を強化する。</p>
健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・安全教育の充実 (幼稚園との連携訓練) ・部活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や交通マナーなど登下校の安全を含め、安心安全な学校生活の方について指導し、生徒自らの安全意識を高める。(大宮子ども園との合同避難訓練を実施) ・異年齢集団で共通の興味関心や目的意識を持ち、活動することの楽しさや喜びを体得させるため、日々の部活動指導を大切にする。 <p>○小中連携活動では、園児との合同避難訓練(津波想定)を5年間実施し安全意識の高揚や豊かな心の育成に努め、生徒の96%、また、部活動体験では93%の生徒が肯定的評価をしている。</p> <p>○部活動は、「目標に向かって協力し楽しい」と答える生徒が、27年度72%、28年度83%、29年度80%と、達成感や充実感に安定がみられる。</p>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・目的意識を高める指導の充実 ・学力の定着と向上 ・二年間を見通した系統的、計画的な指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習や地域の人材を生かした講話学習を実施する。 ・進路情報の収集と進路資料の活用を行う。 ・放課後の学習会と家庭学習の定着を図る。 ・計画的な二者面談、三者面談を実施する。 <p>○計画的に外部講師を招聘し、キャラクタ教育の視点から講話学習が実施でき、生徒達の生き方を考えさせるよい機会になった。</p> <p>○学力補充の時間設定や家庭学習の充実に向け、進路指導部・学習指導部・学年団と連携して取り組めた。</p>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の実態把握 ・一人ひとりの生徒の教育的ニーズ ・特別支援教育についての理解と認識の深化 ・保護者及び関係機関との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターを活用し、学年団や各担任との連携を強化する。 ・個別の指導計画や教育支援計画に加筆する。また、定期的な教科部会とアセスメントを活用し、共通理解を図り、個人に応じた指導にあたる。 ・交流学級との連携や取り組みを積極的に実施する。 ・合理的配慮に関する教育内容や支援体制を確立する。 ・家庭訪問や面談を通して保護者との共通理解を図る。 <p>○コーディネーターを中心とした組織的に取り組めた。また、研修会や定期的な教科部会を開催し、一人ひとりの生徒の実態や課題を共有し指導が展開できた。</p> <p>○保護者と連携し、一人ひとりの教育的ニーズを明確にして共通理解を図りながら指導ができた。</p> <p>○交流学級でも安心した学校生活ができるよう、△外部関係機関との連携を強め、支援の在り方にについて共通理解を図る必要がある。</p>
次年度に向けた改善的方向性	1 組織的な学校運営を図り、各分掌間をより機能化させる。 2 教育活動全体を通し、言語活動を充実させ、質の高い学力の育成に向けた研修と授業改善に取り組む。 3 不登校生徒の未然防止と早期解決に向け、学校・家庭・外部関係機関との連携を強化し、組織的な支援体制を構築する。 4 小中一貫教育の手法を生かし、授業力・学級経営力・生徒指導力の向上を目指す。	

平成29年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進		<ul style="list-style-type: none"> ○学力充実の前提となる授業規律が確立でき、落ち着いた雰囲気の中で授業を進めることができた。 ○「考え方を交流する」場面でのペア学習・グループ学習を意識した授業が増えた。 ○授業改善に向け、教員の意識が向上してきた。 ○教職員の先を見通した指導が随所ででき、大きな生徒間トラブルは見じなかつた。 △網野学園全体で家庭学習充実の取組を行い、取組期間中は成果があつたが、まだ定着はしていない。 △不登校の未然防止や改善の取組を進めてきたが、家庭の状況の困難さ等もあり、解消できていない。 	<p>全校合言葉「本気で本物の追求！」で進める。</p> <p>1 確かな学力の向上</p> <p>(1) 授業規律の確立 (2) 学びスタイルの確立 (3) 家庭学習の充実 (4) 補充学習の充実</p> <p>2 豊かな人間性・社会性の育成</p> <p>(1) 生徒との信頼関係の構築 (2) ボランティア活動の充実</p> <p>3 体力の向上</p> <p>(1) 積極的・意欲的な部活動への参加 (2) 新体カテストの結果を踏まえた継続的指導</p>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
本市の小中一貫教育の諸課題及び各学園の重点等を基盤として	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程 ・授業規律の確立 ・基礎基本の徹底 ・活用する力の育成 ・家庭学習の充実 ・補充学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあての提示により、目的意識を持った授業態度を育成する。 ・共通指導事項「これだけは！」を意識した授業づくりを行なう。 ・授業と関連づけた家庭学習を進める。 ・週末課題の提示と「これだけは！」家庭編を実践するよう指導する。 ・中1ふりスタ・中2学力アップ・地域未来塾の活用 ・生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、指導のすきまを作らないようにする。(業間指導の継続) ・生徒の信頼関係を構築するため、アンケートや教育相談など様々な手法を用いて、助言し、相談にのれる体制を築く。 ・いじめや嫌がらせ等については、教師がサインを見逃さず、初期の段階で指導し、未然防止に努める。 ・学校行事で生徒の信頼関係を向上させる取組を行う。 	<p>△家庭学習をより充実させ、授業と関連させたい。</p> <p>○「本気で本物の追求！」を全校で掲げ取り組むことにより、生徒の生活への目的意識が高まり、自分のしていることへの考え方が深化してきた。</p> <p>○「生徒のいるところには教師がいる」を全校で実践し、生徒を見守ることで、安心した環境をつくれた。</p> <p>○生徒の変化やサインを見逃さず、取組ができる。</p> <p>△不登校生徒の個々の課題に対して、ケース会議や教育相談部会等で話し合い取り組んだが課題が大きい。</p>

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・体力の向上 ・安全に対する意識の高揚 ・健康教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト結果の分析を行い、必要な体力をつけさせる指導を充実させる。 ・積極的・意欲的な部活動への参加を促す、丁寧な指導を行う。 ・交通安全教室・避難訓練等の実施 ・日々の登下校時の安全指導の実施 ・定期的な施設・設備の安全点検を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育の授業で「綱中体操」を毎回取り組み、体力・柔軟性及び体幹を鍛えることができている。 ○部活動を充実させ、意欲的に生徒が取り組めるように指導を行うことができた。(例：目標の年間掲示等) ○登下校の安全指導を全教員が協働して実施できた。 ○学校の安全点検を学期1回全教員で実施し、修繕等に活かすことができた。 △小学校との合同避難訓練を行事調整ができるず、実施できなかった。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導充実のための校内研修の充実 ・生徒の個々の課題を正確に把握し、適切な個別指導計画に沿った指導の充実 ・障害に対する理解教育の推進及び保護者への啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者差別解消法に対応した体制や環境の整備 ・特別支援教育コーディネーターを中心とした校内指導委員会の機能化 ・特別支援学級における指導体制の充実 ・通級指導教室における個に応じた指導の充実 ・個別の指導計画と教育支援計画の見直しと活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○障害の理解教育を行うことができた。 (本校で市特支学級体育交流会を機会として全校実施) ○個々の課題に対応した通級指導を実践することができた。 ○特別支援学級への指導を全校体制で実施できた。 ○障害の理解について研修を行うことができた。 △個別の指導計画及び教育支援計画に基づいた指導を全校体制で実践する点は、課題が残る。 <ul style="list-style-type: none"> ○PTAや教育応援会をはじめ、多くの団体等への啓発や取組紹介などを積極的に進めることができた。 ○伝統文化体験・職場体験学習など、地域の方々に協力していただき、多くのことを学ぶことができた。 ○授業参観や行事参観に多くの方に参加していただけた。
次年度に向けた改善の方向性	1 平成30年度府中研数学研究大会を本校で実施することをチャンスにして、新学習指導要領の趣旨でもある「主体的・対話的で深い学び」となる授業づくり・授業改善を研究し推進する。	2 小中一貫教育の取組の中で、連携して「家庭学習の習慣化」について取組を進め、授業と家庭学習の連動をより充実させる。	3 不登校生徒の解決と未然防止に努めるため、より関係機関との連携を深め、組織的・継続的に取組を行う。
	4 生き生きとした生徒の活動を創造するため、生徒指導と特別活動の連携により、自発的な活動を実践させる。		

平成29年度学校評価自評報告

学校名 [京丹後市立丹後中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
開校4年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性に果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。		昨年度は、「本気で本物に挑戦する」を合言葉にして、落ち着いた学校生活を取り組むとともに、学習、部活動、様々な行事・取組で力を發揮した。校風も落ち着き、しっかりとものとなってきた。さらに、自己肯定感や自己有用感を高め、学校生活に積極的に取り組む力ををつけさせたい。	<p>①開校4年目となり、教育活動の一つ一つを確認・検証しながら進めていき、生徒が輝く校風を築く。</p> <p>②小中一貫教育完全実施2年目であり、全教職員がその目標や目的を共有し、丹後学園の目指す子ども像に向けて、具体的な取組を推進する。</p>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自 己 評 価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 数学の指導の研究を重点教科として進めること。 言語活動を取り入れ、「ことばの力」の育成を図る。 基礎学力の定着及び活用する力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育の重点教科として「算数・数学」の指導について研究し、系統性のある一貫した授業づくりを研究する。 全ての教科に言語活動を取り入れるようにし、「ことば」を育成するための授業形態を工夫改善し実践する。 ・ねらいを持ったドリルや家庭学習課題を継続し行う。 	<p>○「算数・数学」の系統表の作成等、研究成果を授業づくりに活かすことができた。</p> <p>○授業のパッケージ化について、どの授業でも意識して取り組み授業づくりにつなげた。</p> <p>○来年度から移行期間となる新学習指導要領についての研修を学園として行うことができ理解を深めた。</p> <p>△家庭学習の定着をさらに進めていく。</p>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 丹後小中一貫教育でめざす子ども像の実現に向けて取組を進める。 安心できる仲間関係を築かせる。 SNS等の使用について、実態を把握して指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中のみならず業間指導を丁寧に行い、生徒の状況を把握すると同時に、生徒との信頼関係づくりを進める。 いじめ防止対策委員会を機能させ、いじめ調査の結果を基に組織的対応・指導に努める。 SNSや薬物等に係る「非行防止教室」を計画的に実施し、自他を大切にする指導と正しく判断し行動する力を育てる。 	<p>○生徒指導の三機能（自己存在感・共感的な人間関係・自己決定）を取り入れた。</p> <p>○生徒指導部会を時間内に設定し、指導の方向性を明らかにして教職員全員で指導にあたることができた。</p> <p>○いじめアンケート等を通して、状況把握とその指導を丁寧に行い、未然防止、早期対応につなげた。</p> <p>△安全安心な学校生活のために、危機意識を持つて指導にあたる。</p>
健康（体育）・安全	本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の指導を学校生活の向上につなげ、体育系・文化系部活動とかわらず、豊かな心の育成を図る。 ・丹後小中一貫校PTA並びに本校PTAとの連携を強め、あいさつ運動や登下校指導を実施する。 ・生徒の安全安心な学校生活のために、常に危機意識を持ち指導にあたる。 ・ねらいを持たせた避難訓練を実施する。 ・自分や周りの人の命を守る安全教育を行う。 	<p>○豊かな心と強い心を育てるために、どの部活動も生徒の心に響く指導に努めることができた。</p> <p>○大会や試合、発表や作品の出展等、日々の頑張りを発表する場として、また、礼儀やマナーを学ばせる場として部活動の指導にあたることができた。</p> <p>△安全安心な学校生活のために、危機意識を持つて指導にあたる。</p> <p>○丹後子ども園との合同品評会は今後も継続し、自己肯定感を育む学習につなげる。</p>

<p>開かれた学校づくり</p> <p>・保護者・地域への学校公開や授業公開を計画的に行い、丹後中学校開校4年目の教育を理解していただく機会とする。</p> <p>・学校だよりの地域への回覧とともに、学校ホームページを最大限活用して生徒の様子や学園・学校の教育活動を発信していく。</p>	<p>・入学式等の儀式や合唱祭・学習発表会・部活動公開等、様々な教育活動の場面を多くの方に見ていただき機会を計画する。保護者の方だけでなく、地域の皆さんや民主委員様・学校評議員様など、多くの方に見ていただき、ご意見や感想を今後の学校経営に活かす。</p> <p>・地域の取組に積極的に参加し、中学校の状況を伝えると共に丹後小中一貫教育を広く発信していく。</p> <p>・足を運びやすい地域に開かれた学校づくりに努める。そのためにも、地域学校協働本部等を有効に活用し、支援ボランティアの方々の支援を積極的に活用する。</p>	<p>○学校や学園の行事や取組は広く案内をし、学校での生徒の頑張りを見ていたくとともに、励ましていくだけではなく環境づくりに努めることができた。</p> <p>○支援をいたくだけではなく、公民館事業や地域の行事や地域で発表する場には積極的に生徒が地域において、地域の中で地域の子どもとしてできる場を今後も作っていく。</p> <p>△学校支援ボランティアの方々の支援を今後も継続して行つていただけるよう、学校に足を運びやすい学園・学校づくりに努める。</p>
<p>特別支援教育</p> <p>・生徒のそれぞれの特性について教職員間で共有し、特性にあつた支援を全教育活動を通じて行う。</p> <p>・関係機関との連携を丁寧に行い、指導の充実を図る。</p>	<p>・個別の指導計画・支援計画に沿って、個々の課題に応じた指導・支援を丹後小中一貫教育を通して行う。また、通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても、共通理解のもと支援を行うことができた。</p> <p>・校内研や研修会などを通して指導の充実を図り、適切な支援により生徒の力の伸長を目指す。</p>	<p>○個別の指導計画・支援計画に沿って、個々の課題に応じた指導や支援を行なうことができた。通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても、共通理解のもと支援を行うことができた。</p> <p>△さらに、支援の充実のための環境づくりと指導の充実が必要である。</p>
<p>次年度に向けた改善性</p> <p>・丹後学園小中一貫教育をさらに推進させ、学校改善の一つの手法として活かしていく。</p> <p>・学習と部活動の両輪で、確かな学力と豊かな心の育成のために指導力の向上に努める。</p> <p>・地域に開かれた学校づくりをさらに進める。</p> <p>・移行期間となる新学習指導要領にもとづいた教育課程づくりを進める。</p>		

平成29年度学校評価自評報告

学校名〔京丹後市立弥栄中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
学力の定着と豊かな心の育成をめざし、生徒が元気に登校できるように学校生活を安定させる指導を展開し、希望の進路を実現する。		身につけた基本的な生活習慣を学校生活に生かすことができたが、自ら適切な判断を行い、主体的な行動ができるようになるべく必要がある。	自ら学習に励む習慣と仲間と共に中学校生活を送ることができるように指導を行う。 ・多面的な考え方ができ、表現する力をつける。 ・異年齢活動を積極的に取組み、自信をつける。
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	・基礎的基本な知識・技能の定着を図り、学び得たことをもとに活用できる力を身につけさせる。	・望ましい人間関係をめざした学級経営を推進し、日々の授業がわかった、できたらと生徒が実感する指導を展開する。(わかりやすい説明の工夫) ・めざす子ども像「知識と技を磨き、活用する子」を意識し、諸テストの結果を分析し授業改善を図る。 ・家庭学習の習慣を身につけさせるため、課題の克服につながる問題を提示し、適切な指導を行う。	○小中で合同授業研修や情報交流を行い、指導方法を学び合い、中学校卒業時を意識した指導を行う大切さが確認できた。 △基礎基本を身につけた後、発展的な問題や記述問題が解ける力をつける必要がある。学んだことを家庭で復習し、自力解決させる指導の工夫と弱点補強する方法を定着させることである。
生徒指導	・学校全体でいじめ、不登校の未然防止、丁寧な対応を組織的に継続する。 ・自己有用感を実感させ、未来を拓くことができる自立の基盤をつくる。	・いじめアンケートや個別面談を計画し、実態把握をもとに適切な対応を迅速且つ丁寧に行う。(当該学年だけの問題としてとらえず、学校全体の問題として取組む) ・自主的、自治的活動をとおして自立の基盤をつくる。 ・道徳、人権教育を核として思いやりの心を育む。 ・生徒指導部と教育相談部の連携を強化する。	○生徒との面談や学年集会を適宜設定することで、問題行動の未然防止につながり、生徒との関係づくりができた。また、日々の係り活動等の任務を全うする習慣が身についた。 △不登校について、全体で考えさせ改善するところまでには至らなかつた。
健康(体育) ・安全	・心身を鍛え、何事もやり抜く生徒の育成をめざす。 ・部活動の活性化を図る。 ・安全安心な学校生活を營むことができるよう保護者、地域と連携を図る。	・望ましい食生活の習慣をつける給食指導を行う ・目標を設定し達成するための練習を継続させていく。(体育、部活動、学校行事等) ・危機意識向上と危機回避能力を身につける安全教育や防災教育を行う。(避難訓練、交通教室、薬物指導等) ・日々の登下校の指導、保護者、地域と連携し交通指導、挨拶運動を行う。	○残食もなく、健康増進につながった。日々の朝練習も参加する生徒が多く、基本的な生活習慣が身についた。 △不注意により接触事故や怪我があった。危機意識を持たせる指導が要る。継続的に注意喚起とともに、学んだことを日常生活に生かすことである。

<p>(A) 危機管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力保障を行うため に、教育環境を整え、安心 安全を第一に教育活動を行 う。 ・報告、連絡、相談ができる 学校体制を確立し、保護者、 地域からの信頼関係を構築 する。 	<p>・学力の向上を図るため、生徒の学校や家庭での生活実態 を把握した上で、個別の対応や全体指導により、自他の 良さを実感させ、仲間と共に伸びる教育活動を進める。 定期的に学校から生徒の活動状況を発信し、保護者、地 域社会と連携をし、情報の共有化、問題に対する未然防 止を図る。(学校評議員、民生児童委員、弥栄学園教育 支援協議会との連携、学校だより、HP等の情報発信)</p> <p>△学校の様子を HP や各種たよりによって、情報発信を行つたが、保護者、地域の方へ浸透するまでは至つ ていない。</p>
<p>(B) 研修(資質向上の取組)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育公務員として服務規律 を高め、指導者としての責 任と自覚をもつて教育実践 を積み上げる。 	<p>・確かな学びを身につけるために、子どもに深い学びとな る授業をめざした小中合同授業研究会を開催し、指導力 の向上をめざす。(じっくり考え、他者と協働し、視野 を広げ、まとめた結果を表現できる力をつける) ・「教職員人権研修ハンドブック」や「人権教育を推進す るために」等を有効活用した研修を行い、人権教育につ いて確認し人権意識を高め、教育活動に生かす。</p> <p>1 習得した知識や技術を生かす。(教科学習、部活動等で「わかる」ことから、じっくり考え、「できる」ようにさせる、そして、生きてはたらく ものとなるようになる。) <ul style="list-style-type: none"> (1) 仲間と協力したり、競争したり、共に学び合う関係づくりを行う。 (2) 学んだことが日常生活に生かすことができるようになる。 </p> <p>2 自尊感情の醸成を目指し、学校生活が積極的な活動となるよう指導を展開する。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学校を居心地の良い場とする。 (2) 目標の設定をさせ、適切な指導のもと意欲を高める評価を行う。 </p> <p>3 弥栄学園の教育目標に向かって、実践を積み上げていく。 <ul style="list-style-type: none"> (1) ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く児童生徒の育成をめざす。 (2) 校訓「真理、正義、高雅、愛郷」を意識させる。 </p>

平成29年度学校評価自己評価報告書

学校名 [京丹後市立久美浜中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
○規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことが当たり前でできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にする学校を目指す。 ○久美浜学園小中一貫教育の利点を最大限に生かし、教職員間の共通理解を丁寧に図りながら系統的に実践を積み上げる。		○新生久美浜中学校で土台づくりの3年を終えた4年目、新たな学校づくりに生徒と教師が協働で取り組み、より良い学校を目指して相互の意識が高まった。 ○生徒会活動が活性化し、久美中版学力向上策（全校2ページ学習、異年齢教え合い学習）の典型ができた。 ○教師間のコミュニケーションを第一とし、生徒指導・教育相談においては、みんなで動いて、組織的に課題解決できるようになつた。 ○教職員や児童生徒、また地域や諸団体の中で、久美浜学園の取組が前向きな評価を得、学校地域連携推進協議会の立ち上げにつながつた。 △若手教師の授業改善意欲が高まり、個人の実践は進んだが、実践交流が不十分で、広げることができなかつた。 △帰宅後、SNS等に多くの時間を費やし、家庭学習の時間確保ができていない生徒の割合が高い。各種テストにおいて全国・府平均を大きく下回つている。 △特別な支援を必要とする生徒について、校内教育支援委員会を機能させた組織的な指導ができるといない。	【3つのキーワード】 「人の話を聞く」「考える」「表現する」 <久美浜学園> 重点課題：学力向上 【授業規律の確立、言語活動の充実、家庭学習時間の確保】 ○法やルールに関する教育の推進 ○人権教育・道徳教育・特別活動の充実 1 課題や具体的な方策の明確化と進行管理 (1) 課題 ア 規範意識の醸成 イ 学力向上 ウ 不登校生徒の解消と未然防止 (2) 指導の重点 ア 徹底した実態把握と共通理解、組織的な課題解決 イ 生徒指導の3機能を生かした授業改善 2 開かれた学校づくり (1) 地域の特性を生かした総合的な学習の時間の充実 (2) 地域や保護者への情報発信と地域学校協働活動の推進
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	1 生徒や地域の特性を生かした教育課程の編成 2 授業実践力の向上 3 言語活動の充実 4 家庭学習時間の確保	◇丹後学の充実：1年地域調べ（京丹後・久美浜）、2年立志式、3年福祉体験（サロン活動、介護体験、提言） ◇校内授業研（4回）：生徒指導の3機能を生かした授業、言語活動工夫 ◇公開授業（6回）：教科、道徳、法やルールに関する教育等 ◇小グループ（異年齢も含む）を活用した言語活動の充実 ◇久美中ドリルの工夫・改善 ◇中1ふりスタ・中2学力アップ講座の工夫、地域未来塾の充実 ◇生徒会の取組の充実（2ページ学習、教え合い学習）	○2年で「立志式」を実施し、学級・学年で発表会も行つた。自分の生き方を見つめ考える良い機会となつた。 ○毎学期に行つた異年齢による教え合い学習等の充実により生徒の自己有用感も高まつた。 ○地域未来塾ではタブレットも活用しながら指導し、そのことが充実した取組に繋がつた。 ○昨年度以上（4回）の校内授業研をもち、言語活動の充実を中心とした授業改善を図つた。 △家庭学習の充実に更に力を入れる。

生徒指導	1 人権教育・道徳教育、法 やルールに関する教育の推 進と規範意識の醸成	◇生徒とのふれ合い（業間も含む）、話しこみ ◇組織的対応：みんなで動く、複数指導	○関係部会（生徒指導、教育相談）を定例化し、職員全 体で情報共有するなかで、複数体制で個別の対応を行 う等、状況に応じた組織的な動きがつくれた。
	2 いじめの未然防止と解消	◇「はあとほつとタイム」：学期1回以上	○全校での「はあとほつとタイム」を広げ、学年や学級 でも取り入れることで生徒の自己肯定感を更に高める ことができた。
	3 自己肯定感の高揚、共感 的な人間関係の育成	◇携帯教室（情報機器の安全な取扱い）	○「情報機器の安全な取扱い」に特化した授業・講演会 を小4児童、中学生、PTA 対象にも行った。危険性へ の認識が更に深まり、トラブルが減少している。
	4 不登校（不登校傾向生徒） の解消と未然防止	◇主要部会の定例化：生徒指導（いじめ対策）、教育相談、 特別活動	△不登校生徒の解消に課題が残る。
	5 関係諸団体との連携強化	◇「気づき」「今週の気になる生徒」の発行 ◇麦わら、病院、SSWとの連携	○部活動については生徒達の意欲も高く、大変充実して おり、そのことが好成績にも繋がった。 ○夏みかんの日等、命に係る指導を計画的に実施するな かで、生徒の命や安全に対する認識が深まつた。 ○学期に1回（7月：火災、12月：不審者、3月：地震） 緊急対応訓練を実施し、基本対応への周知を図つた。
健康（体育）・安全	1 部活動の充実と達成感の 享受	◇緊急時対応訓練 6月：火災、11月：不審者、3月：地震	○コーディネーターが中心となり、校内教育支援委員会 を定期的にもつながり、組織の機能化が図られた。
	2 緊急時対応訓練の充実	◇公開授業：食育指導と保健指導との連携	○関係諸機関との連携を図ることも、担任及び教科担 当者と本人・保護者との話し合いを丁寧に行なつた。
	3 食育指導の充実	◇自転車（安全）指導、禁煙教育、生命のがん教育、薬物 指導、性に関する教育	結果、支援が必要な生徒への授業等での合理的配慮の 具体化が図れた。
	4 交通安全指導の徹底と健 康教育の充実		△多様化する保護者等からの要望に対して、関係諸機関 との連携を更に強化し、対応する。
			○HP やたより等によるタイムリーな情報発信（学校・久 美浜学園）を行うことができた。
特別支援 教育	1 校内体制の充実	◇コーディネーターによる校内教育支援委員会の機能化	○保護者や地域に対する誠実・迅速・丁寧な対応
	2 障害のある生徒に対する 個に応じた指導の充実	◇特別支援教室構想に基づく支援 ◇実態把握：アセスメント票、個別の指導計画・支援計画 ◇個別データの蓄積：差違障害をもつ生徒、有効な手立て ◇担任並びに担当者と本人・保護者との丁寧な懇談 ◇連携強化：保護者、教師間（教科担当等）、関係諸機関 (病院等)	◇たより、HP等による情報発信（学校・久美浜学園） ◇学校地域連携推進協議会の機能化と地域学校協働活動 の推進
			○保護者や地域に対する誠実・迅速・丁寧な対応
	1 信頼される学校づくり	◇保護者や地域に対する誠実・迅速・丁寧な対応	○HP やたより等によるタイムリーな情報発信（学校・久 美浜学園）を行なうことができた。
	2 双方向の情報交流を活か した学校改善	◇たより、HP等による情報発信（学校・久美浜学園） ◇学校地域連携推進協議会の機能化と地域学校協働活動 の推進	○保護者、地域に対しての誠実・迅速・丁寧な対応によ り、一定の信頼を得られた。
次年度に向け た改善の方 向性	◎久美浜学園小中一貫教育3年目を迎え、より一層系統的、組織的に実践を積み上げる。 (1) 授業改善（基礎・基本の習得・定着と言語活動の充実） (2) 望ましい人間関係の構築と自尊感情・自己有用感の高揚 (3) 不登校（傾向）生徒の解消		

